

第2期
丹波市生涯学習基本計画
(案)

(令和7年度～令和16年度)

目次

第1章 丹波市生涯学習基本計画の策定にあたって

1. 生涯学習とは
2. 計画策定の目的
3. 計画の位置づけ
4. 計画の期間
5. 策定体制

第2章 第1期丹波市生涯学習基本計画の検証

1. 【基本目標 1】 まなび人を増やそう
2. 【基本目標 2】 まなび力を育てよう
3. 【基本目標 3】 まなび里をつくろう
4. 計画の推進体制

第3章 本市の生涯学習に関する現状と課題

1. 生涯学習に関する市民の意識
2. 生涯学習をとりまく社会情勢の変化と丹波市の現状
3. 丹波市における生涯学習施策の課題

第4章 基本構想

1. 基本理念
2. めざす方向性
3. 基本理念とめざす方向性についてのイメージ図
4. 施策体系一覧

第5章 計画の推進

1. めざす方向性1 「誰もが楽しみながら学ぶことができる学びの環境づくり」
2. めざす方向性2 「みんなの『やりたいこと』を支える人づくり・つながりづくり」
3. めざす方向性3 「学んだ成果を活かしながら活躍できる地域づくり」

第6章 計画の推進体制と進捗管理

1. 推進体制
2. 計画の進捗管理

参考資料

1. 丹波市生涯学習基本計画審議会設置条例
2. 丹波市生涯学習基本計画審議会委員名簿
3. 審議会の経過
4. 用語集

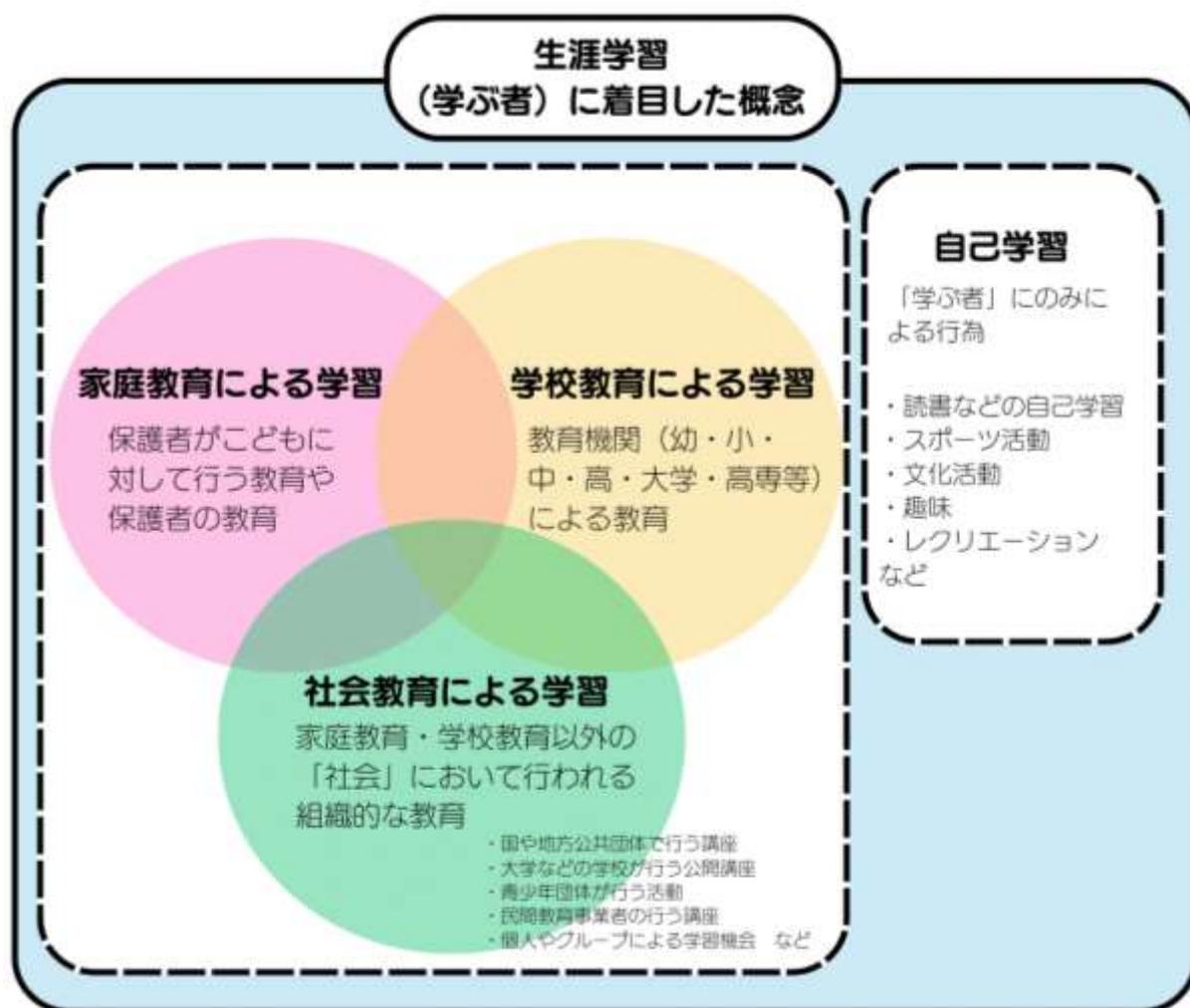
第1章 丹波市生涯学習基本計画の策定にあたって

1. 生涯学習とは

生涯学習とは、「一人ひとりがその生涯を通じて行うあらゆる学習(学び)」を指します。例えば、読書などの自己学習やスポーツ活動、文化活動や趣味・特技を深めること、子育てや介護を行うために学ぶことなど、乳幼児期から高齢期まで、すべての世代の人が自身の興味関心に応じた生涯学習を行っています。

また、地域・家庭・学校などの様々な場所や、タイミングで、幅広い学びがあることも生涯学習の特徴であると言えます。そのほかにも、「学校教育」や「家庭教育」、広く社会の中において行われる「社会教育」での学びについても生涯学習に含まれます。こどもから大人まで全ての人が自身の人生を豊かにするために学び、活動しています。

生涯学習の概念図



2. 計画策定の目的

人口減少や少子高齢化の進行、地域コミュニティにおける社会的つながりの希薄化、グローバル化やICTによる技術革新の進展など、私たちを取り巻く社会情勢は、近年目まぐるしく変化しており、市民ニーズの多様化、地域課題の複雑化は益々進行しています。

本市では、このような社会情勢の変化に対応するため、市民が主体的に学び、学んだ成果をまちづくりの実践に生かし、さらに実践の中から生じた新たな課題へと挑戦し学ぶ、知識循環型生涯学習のあり方や施策を体系的に位置づけた丹波市生涯学習基本計画(以下「第1期計画」という。)を平成27年4月に策定しました。

第1期計画は本市をより良いまちにするために人口減少時代においても市民一人ひとりがいきいきと活躍する「めざす市民像」や地域が活力を持ち続ける「めざすまちの姿」を設定し、「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」を市民と協働し推進してきました。

このたび、10年間を計画期間とする第1期計画の終期を迎えることから、今後も引き続き、市民一人ひとりがいきいきと活躍する「めざす市民像」や地域が活力を持ち続ける「めざすまちの姿」の実現に向けた施策を市民と協働し推進するため、第1期計画を発展させた第2期丹波市生涯学習基本計画(以下「本計画」という。)を策定しました。

令和5年6月16日に閣議決定された国の第4期教育振興基本計画では、コンセプトとして、2040年以降の社会を見据えた「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、今後の教育政策に関する基本的な方針において、「生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる」ことが示されています。

また、令和6年9月30日議会で可決された市の政策の最上位計画である第3次丹波市総合計画では、めざすまちの将来像を「まなび ときめく 丹(まごころ)の里～しあわせ輝く みんなの未来へ～」とし、この「まなび」に込める想いを「こどもから大人まで、あらゆることに関心を持ち、意欲を持って生涯学び続け、自らの経験や気づきを活かし、互いに成長しあえるまちをつくります。市民一人ひとりの力が磨かれ、次世代を担う人材が育つまちをつくります。」として市民の主体的な生涯学習活動の重要性を示しています。

本計画は、年齢・性別・国籍の違いや障がいの有無などに関わらず、誰もがいきいきと暮らすことができる、個人と地域全体のウェルビーイングの向上を目指して、市民が楽しみながら生涯学習(学び)に取り組み、人とのつながりを通じて、豊かな学びの場を創ることにより、人づくり・つながりづくり・地域づくりを推進するために体系的に位置づけています。

本計画の推進により、市民一人ひとりが互いに認め合いながら、いきいきと楽しく活動ができ、そして、それぞれの学びの成果を活かして、「やりたいこと」を形にすることで、誰もがまちづくりに関わるまちの実現を目指してまいります。

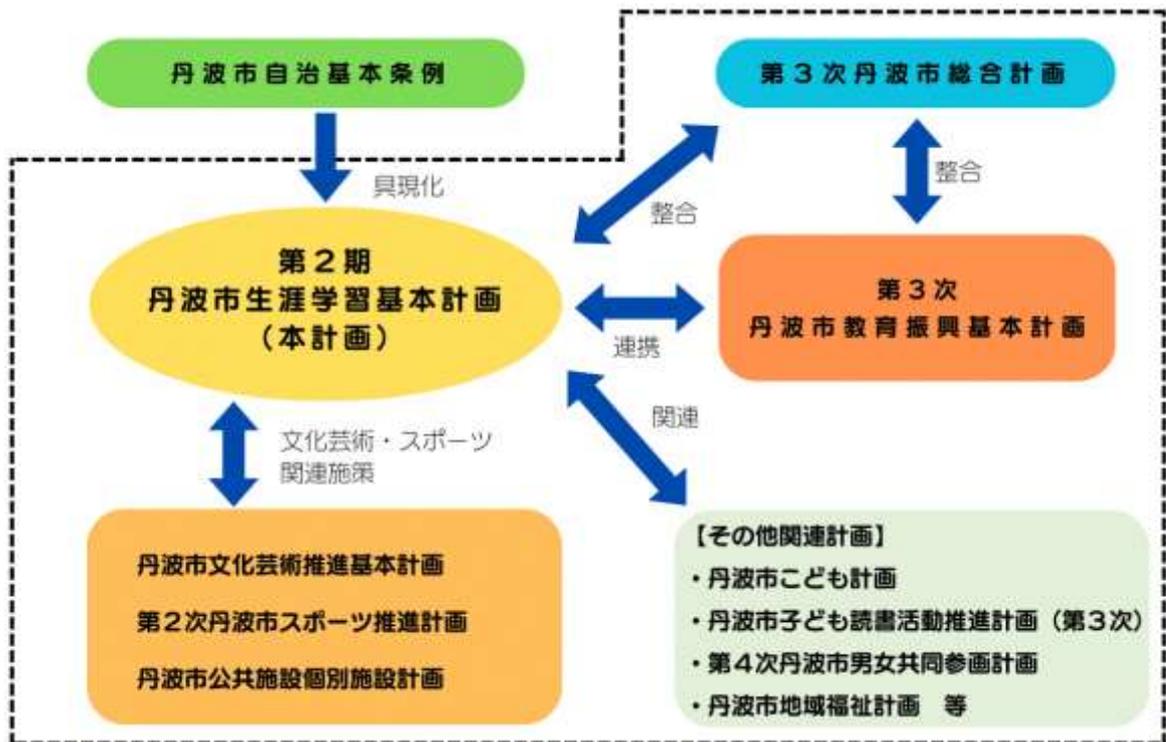
3. 計画の位置づけ

本計画は、丹波市の最高規範である丹波市自治基本条例に則り策定されたものであり、特に第21条(生涯学習)を具現化したものです。計画の推進にあたり、丹波市自治基本条例に定める5つの基本原則「市民主体の原則」「情報の公開及び共有の原則」「補完性の原則」「協働の原則」「多様性尊重の原則」を踏まえながら、多様な主体同士が連携し、生涯学習に取り組むことが重要です。

また、本計画に示す取組はあらゆる分野に関わるため、「第3次丹波市総合計画」や「第3次丹波市教育振興基本計画」との整合や連携を図り、その他の関連計画を総合的に勘案して策定しています。他の計画との関連については下図のとおりです。

関連計画のほかにも、「第3次丹波市人権施策基本方針」や「丹波市図書館ビジョン」などの基本方針についても関連させながら、計画を実施していきます。

関連計画等との位置づけ



4. 計画の期間

本計画の期間は、令和7(2025)年度～令和16(2034)年度までの10年間とし、5年ごとに計画の内容について見直しを行います。

計画の期間

計画	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	
第2期丹波市 生涯学習基本計画																
第3次 丹波市総合計画																
第3次丹波市 教育振興基本計画																
丹波市 文化芸術推進基本計画																
第2次丹波市 スポーツ推進計画																
丹波市子ども読書活動 推進計画(第3次)																
丹波市こども計画																

5.策定体制

(1)丹波市生涯学習基本計画審議会※による審議

本計画の策定は、丹波市生涯学習基本計画審議会(以下「審議会」という。)において、市長の諮問に応じ、審議を行いました。

審議会では、本市の生涯学習の推進普及に関すること等を所掌事務とする丹波市学びの里づくり協議会から提出された「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」を展開していくために「生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進に向けた提言」や第1期計画の成果と課題を踏まえ、国や県における生涯学習施策の動向や市民意識調査(アンケート)の結果から見えてくる現状と課題を整理し本計画の基本理念やめざす方向性を審議しました。

※令和7年4月以降は「丹波市生涯学習推進審議会」に名称を改めて開催

(2)市民意識調査の実施

●生涯学習に関するアンケート調査

本計画を策定するにあたり、今後の生涯学習事業を推進していくための基礎資料とするため、市民の生涯学習活動の状況やその実態及び意識を明らかにする目的で実施しました。

- ・調査地域 丹波市全域
- ・調査対象者 市内在住の満18歳以上の市民
- ・抽出方法 住民基本台帳により 2,000 人を無作為抽出
- ・調査期間 令和6年6月～7月
- ・調査方法 郵便配布／郵便回収又は web 回答
- ・回収数及び回収率 703人／35.2%

●教育に関するアンケート調査

第3次教育振興基本計画の策定に向けて、教育についての現状や課題把握のために実施されました。本計画では、その内の生涯学習に関係する調査の結果を参考にしました。

- ・調査期間：令和5年12月～令和6年1月

アンケート種別	配布対象者	回答数	回答率
小学生(市内5年生)	496	441	88.9%
中学生(市内2年生)	503	345	68.6%
高校生(特別支援学校高等部含む)	1,020	645	63.2%
市民アンケート※	—	517	—

※市民アンケートは無作為抽出などしていないため回答率を算出していません。

(3)TAMBAまなび・ときめきフェス 2024～えんにち(縁・円・宴)！「ひと」と「ひと」
がつながる日～アンケート調査等

全市民を対象に、対話を通じて「まなぶ」ことの楽しさや、「つながる」ことの温かさを感じ、だれもの「やりたい」がくすぐられ、ワクワクする毎日と一緒に創っていくための「まなびの土壌」を豊かにすることを目的に本イベントを開催し、そこで
のアンケート結果を参考にしました。

- ・実施日 令和6年10月26日(土)14:00～16:30
- ・場 所 丹波市立春日文化ホール
- ・参加者数 62名(氷上中学校吹奏楽部29名・大人33名)

(4)パブリックコメントの実施

広く市民などから意見を聴取し、それらを計画に反映させるためにパブリックコメントを実施しました。

- ・実施期間 令和7年■月■日～■月■日
パブコメミーティング 令和7年■月■日(■)
- ・提出方法 直接持参、郵送、FAX、メール(書式は自由)
- ・意見件数 ■件

ちょこっとコラム①

つながりやかかわりと「ウェルビーイング」



身体的・精神的・社会的に良い状態にあることを「ウェルビーイング」と言います。さらには、短期的な幸せのみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸せを含む概念です。

そして、市民一人ひとりがそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、学校や職場、居場所など市民が日常的に過ごす場や関わる場、地域、社会が幸せや豊かさを感じられる状態を目指す考え方です。つまり、個人の幸福感を高めるだけではなく、日常的に過ごす場や地域全体の幸福感が高まることが大切になります。地域全体のウェルビーイングが高い状態は、「互いの信頼関係や協力関係が高まり、誰もが安心して暮らすことができる」状態とも言えます。

そのような状態を目指している場や地域は、誰もが「やってみよう」という前向きな気持ちになり、そこに参加する人が増えていくでしょう。その中で、そこに参加する人たちの「つながり」や「かかわり」が生まれ、周囲の人々とのつながりを大切にする人や相手に対する「ありがとう」という感謝の気持ちが生まれてきます。また、相談できる相手や信頼できる人間関係があることで、困難なことに対しても「なんとかなる」というポジティブな気持ちが芽生え、チャレンジすることに前向きになっていきます。そのような人が増えていくと、自分と誰かを比較することが少なくなり、誰もが「自分らしく生きていく」ことに幸せを感じられるようになるでしょう。

第2章 第1期丹波市生涯学習基本計画の検証

第1期計画では、人口減少や少子高齢化、日々発達する科学技や政治・経済のグローバル化などから生まれる多様で複雑化する課題と向き合いながら、住み慣れた地域で一人ひとりが豊かに住み続けることができる“持続可能なまちづくり”を進めるために、「たんばにひろげる まなびの輪」を基本理念に「めざす市民像」や「めざすまちの姿」を設定し、生涯学習活動の成果を活かして地域課題の解決に取り組むことによって、生涯学習に興味を持つ人がさらに増え、「まなびの輪」を次世代に繋いでいく「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」の実現をめざして市民と協働して取り組みました。

「知識循環型生涯学習」とは…

- ①生涯学習に興味関心を持ち、取り組む「まなび人を増やそう」
- ②継続して学び、主体的に学びをつくる「まなび力を育てよう」
- ③地域の魅力に気づき、学びを生かすことができる「まなび里をつくろう」

を基本目標に据え、個々の目標を単独に達成していくのではなく、それぞれを循環させながら、3つの基本目標の達成をめざすことで基本理念の実現を図るものです。

本章では、第1期計画において設定した3つの基本目標を達成するために取り組んだ具体的な事業の一部を掲載し、基本目標それぞれに設定した指標とともに検証します。

第1期丹波市生涯学習基本計画の概要

○基本理念

「たんばにひろげる まなびの輪 ～豊かな資源を活かした生涯学習環境づくり～」

○基本目標

1. まなび人を増やそう
2. まなび力を育てよう
3. まなび里をつくろう

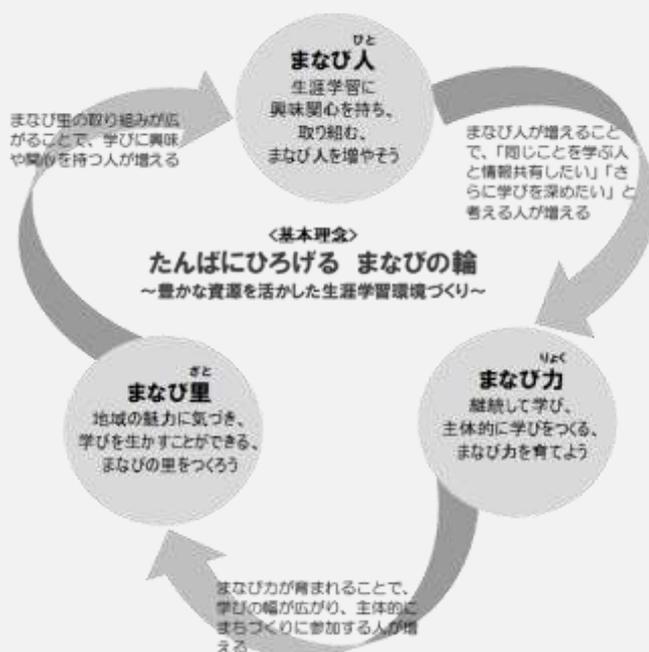
○めざす市民像

地域に愛着と誇りを持ち、相手の価値観を認め、人と人のつながりを大切にしながら、丹波市をより良いまちにするために、当事者意識を持って活躍する人。

○めざすまちの姿

人口減少社会においても、地域が活力を維持し、市民一人ひとりが活躍できる力を育み、丹波市を持続可能で豊かなまちにするために、他者と喜びを分かち合い、協働しながら主体的な学びを支えあうまち。

知識循環型生涯学習のイメージ



1.【基本目標 1】 まなび人を増やそう

○まなび人とは

生涯学習に取り組む人。

生涯学習に興味関心を持ち、取り組みたいと考える人。

(1)主な取組内容と成果

基本目標1「まなび人を増やそう」では、「生涯学習に興味関心を持ち、取り組む人を増やす」ことを目指していました。そのために「学びへの関心を高める」「学びを見つける」「学びの場をつくる」という**目標達成のための**課題を挙げ、各種事業に取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の生涯学習活動や地域での活動が制限されましたが、現在はそれぞれの活動が再開してきており、積極的に生涯学習に取り組む「まなび人」が増えている傾向にあると言えます。

○TAMBA シニアカレッジ

概ね60歳以上の方を対象に、高齢期をいきいきと心豊かに過ごすため、シニア世代の生活課題の解決や、仲間づくりを目的に教養講座を開催しています。

様々なテーマで開催している教養講座では、受講生同士の対話の時間を作るとともに、自宅にいながらも学習ができる「ラジオ講座」に取り組み、幅広い方法で学ぶことができる機会となりました。



○自治公民館活動支援

各自治会の「地域住民の学びの場」である自治公民館の活動を支援するために、「自治公民館活動補助金」や「自治公民館施設整備事業補助金」などの補助事業に取り組んでいます。また、自治公民館長や公民館主事等を対象とした研修会や交流会を実施し、各自治公民館での活動を支援することができました。



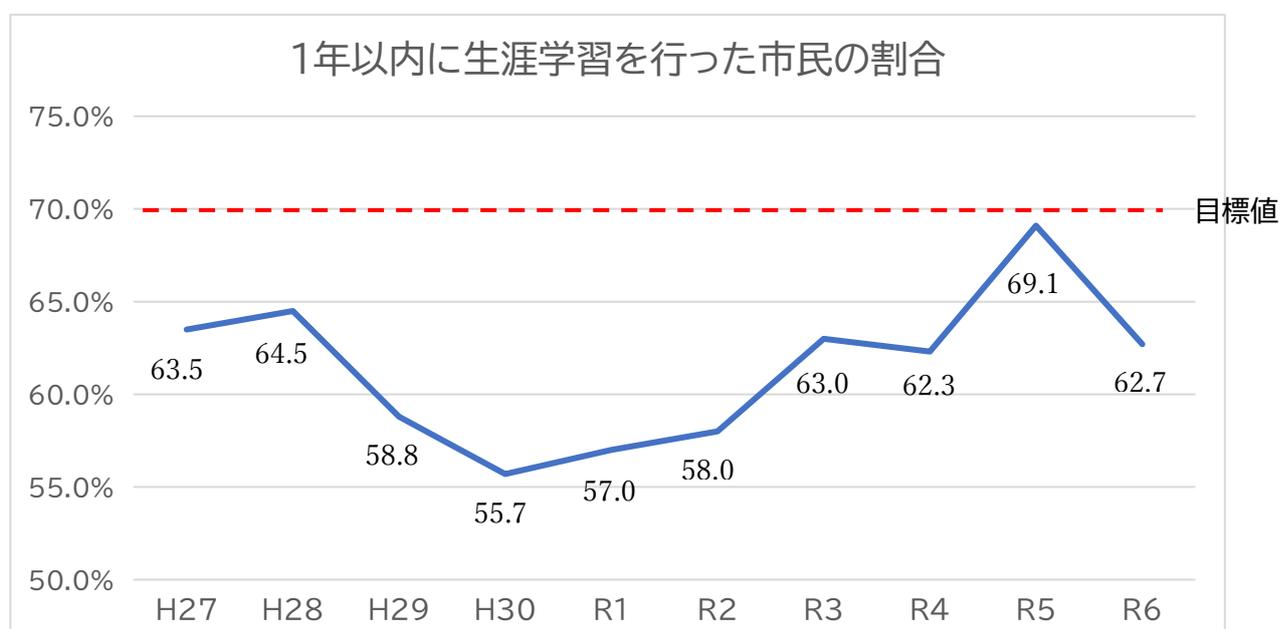
QRコード
各事業一覧

(2)主な指標

基本目標1「まなび人を増やそう」を達成するための指標として、「1年以内に生涯学習を行った市民の割合」をシンボル指標に定め、生涯学習を実施している市民の割合の目標値を70%に設定しました。過去10年の推移では、平成30年度から徐々に上昇傾向を見せていますが、目標達成には至っていません。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面による生涯学習活動や地域活動が制限されましたが、市としてもコロナ禍に対応できる生涯学習事業の展開が不足していたことが目標未達成の要因ではないかと考えられます。

指標	実績値(%)										目標値(%)
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6
1年以内に生涯学習を行った市民の割合	63.5	64.5	58.8	55.7	57.0	58.0	63.0	62.3	69.1	62.7	70.0



2.【基本目標 2】 まなび力を育てよう

○まなび力とは

継続して学び、主体的に学びをつくる力。

「まなび人」自身が学びを深め、発展させるために継続して学ぶことができる力

「まなび人」が主体的に市や地域等と連携しながら、持つ知恵や技術を生かして、新たな学びをつくる力。

(1)主な取組内容と成果

基本目標2「まなび力を育てよう」では、「継続して学び、主体的に学びをつくる、学び力を育てる」ことを目指し、「学びでつながる」「学びを生かす」「学びの力を高める」という目標達成のための課題を挙げ、各種事業に取り組みました。

本市では、知識循環型生涯学習推進の拠点として丹波市市民活動支援センターを設置しています。市民活動支援センターでは「みんながセンセイ！みんなが生徒！たんばまなびのマルシェ」など、幅広い世代に向けた企画を実施しており、「まなび力」を育てるための様々な事業を展開しています。

○みんながセンセイ！みんなが生徒！たんばまなびのマルシェ (市民活動支援センター事業)

「みんながセンセイ！みんなが生徒！まなびを楽しもう。」をコンセプトとして、市民誰もがセンセイになることができる「みんなで楽しむまなびの場」です。

センセイの好きなこと、得意なことを活かした多様なテーマの授業が実施されています。学んだことを実践する機会として、幅広い年代の方が参加しています。



○OTAMBA 地域づくり大学

地域や各種団体で活躍できる実践力を伴った人材を育成し、地域力を向上させることを目的に平成27年度から令和3年度まで実施しました。

当時の受講生は地域づくり活動や市民活動などで活躍しています。



○市民と一緒に作る図書館

市の行う「図書館サポーター養成講座」を受講した市民が「図書館サポーター」となり、**書架の整理や、壁面の飾りつけ**などを一緒に実施しています。

また、「子ども司書養成講座」を受講したこどもたちが実際に「子ども司書」となり、**お話会**など図書館をベースとした活躍の場を広げています。

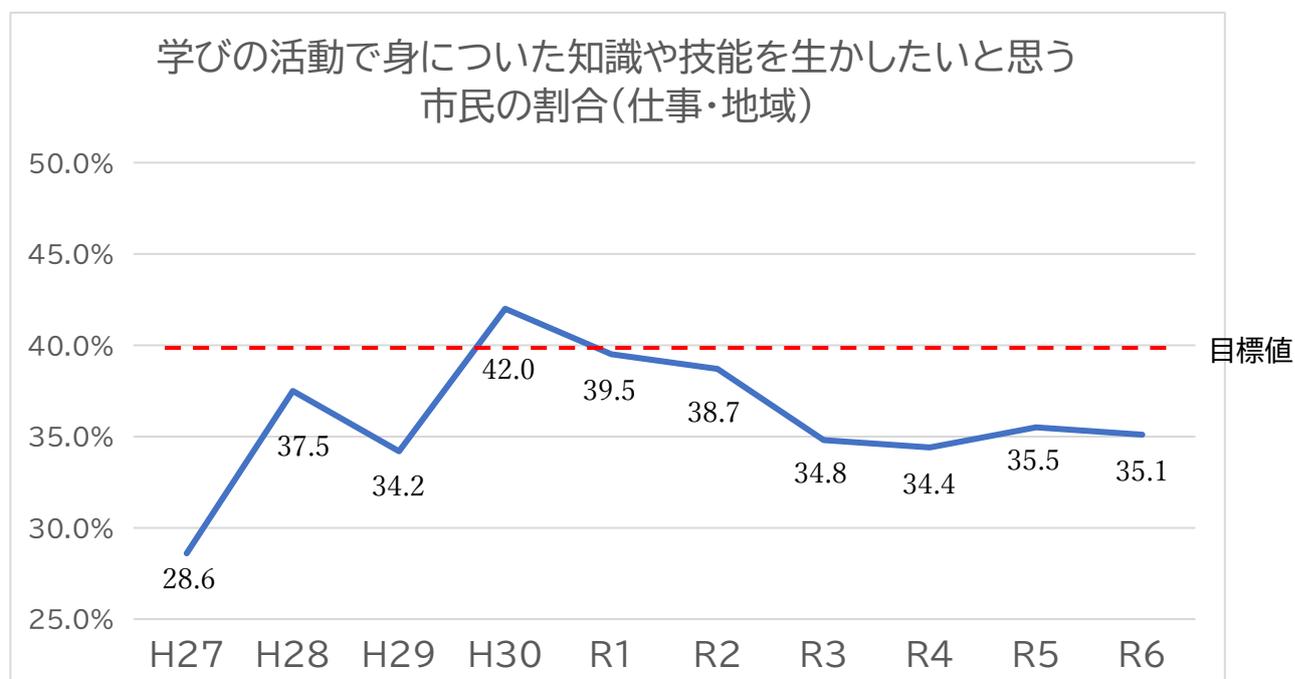


(2)主な指標

基本目標2「まなび力を育てよう」では、生涯学習で学んだ知識や技能を地域や仕事で生かしたいと思う市民を増やすことを目標に、学んだ内容を自身の生涯学習だけでなく、地域などで力を発揮できる力を育むことができる講座などを推進してきました。

結果としては、指標である「学びの活動で身についた知識や技能を生かしたいと思う市民の割合」は、目標値に届きませんでした。また、「みんながセンセイ！みんなが生徒！たんばまなびのマルシェ」や、「図書館サポーター養成講座」などにより、地域の中や得意な分野で活躍する人材が生まれています。

指標	実績値(%)										目標値(%)
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R6
学びの活動で身についた知識や技能を生かしたいと思う市民の割合(仕事・地域)	28.6	37.5	34.2	42.0	39.5	38.7	34.8	34.4	35.5	35.1	40.0



3.【基本目標 3】 まなび里をつくろう

○まなび里とは

「まなび力」を开花させ、活躍する機会にあふれた里。

「まなび力」を生かしながら、地域の課題解決や活性化につながる里。

(1)主な取組内容と成果

基本目標3「まなび里をつくろう」では、「地域の魅力に気づき、学びを生かすことができる、まなび里をつくる」ことを目指し、「学びで地域の魅力を見つける」「学びのまちをつくる」「学びからまちを活性化する」という目標達成のための課題を挙げ、各種事業に取り組んできました。学習しやすい環境が整備されていると思う市民の割合は今年度減少していますが、地域の中では様々な事業が展開されています。

○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

学校(学び)を核とした地域づくり・人づくりの実現を目指し、学校や地域が共につながり合いながら、子どもたちとそれを取り巻く大人たちとの連携・協働を行っています。この連携・協働を進める担い手として、市教育委員会から委嘱している「地域学校協働活動推進員」が学校と地域の間に入り、各地域でそれぞれの特徴を活かした活動を展開しています。



○地域から考える学びの未来会議

丹波市の教育をみんなで考える新たな学びの場として、市民と行政が連携し、「地域から考える学びの未来会議」を開催しています。

令和5年度には「学校と地域が共に考える学びの未来サミット」を開催し、学校や地域から参加された多様な人たちが同じテーマで共に学び合い、語り合う機会となりました。



○丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金

多様化するニーズや複雑化する地域課題に対応するためには、行政だけでなく、地域社会を構成する市民一人ひとりが地域の担い手となって、力を発揮することが重要です。

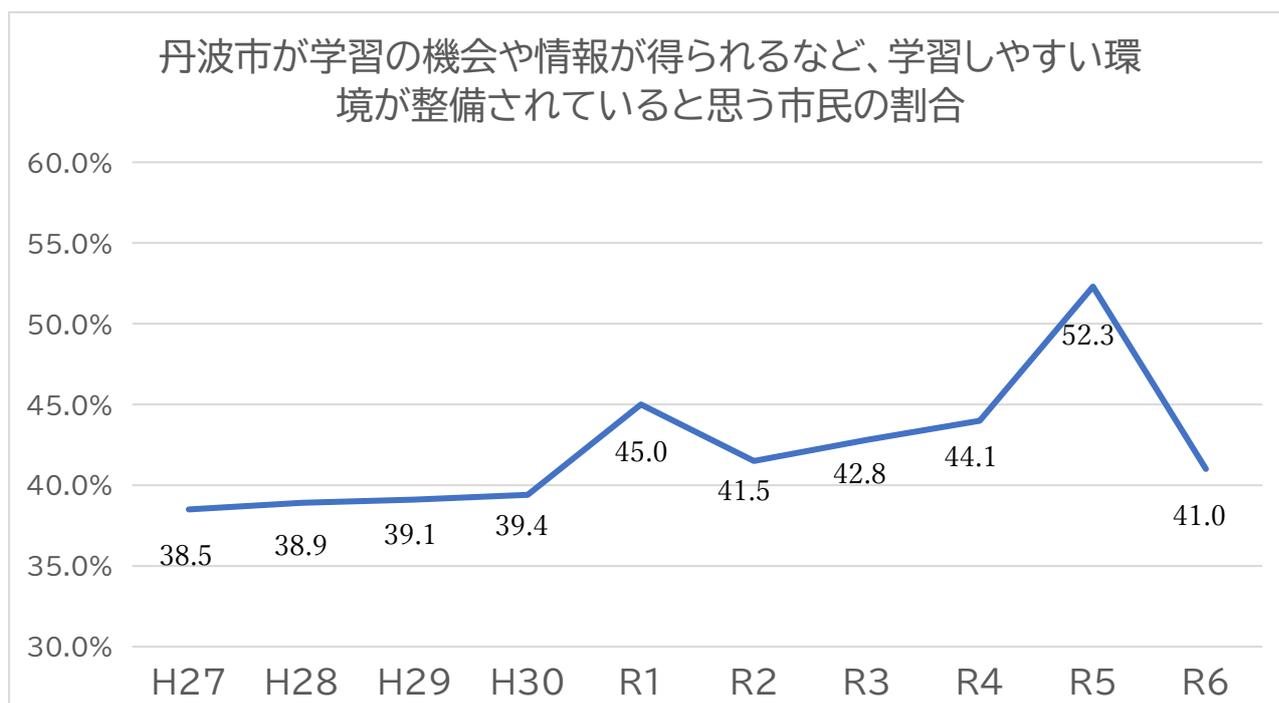
生涯学習で学んだことを活かした市民の皆さんの提案による新たな活動のスタートアップや、現在実施している活動の拡大を支援しています。



(2)主な指標

基本目標3「まなび里をつくろう」では、学習の機会や情報が得られるなど、学習しやすい環境づくりを目指しています。令和4年度からは、丹波市市民プラザにおいて指定管理者制度が導入され、民間の視点による情報発信や、多世代に向けた学びの場を作ってきました。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進においては、地域住民と学校との連携・協働が進み、市民が学んだ成果を生かせる機会が増えてきたといえます。調査では、令和6年度に減少が見られますが、それより前は全体的に上昇傾向にあります。

指標	実績値(%)										目標値(%)
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
丹波市は学習の機会や情報が得られるなど、学習しやすい環境が整備されていると思う市民の割合	38.5	38.9	39.1	39.4	45.0	41.5	42.8	44.1	52.3	41.0	増加



4. 計画の推進体制

平成27年度から実施してきた第1期計画においての、計画の推進等を行う市の体制については主に以下のとおりです。

(1)丹波市生涯学習推進本部会議

市の生涯学習事業の推進については、「丹波市生涯学習基本計画」を元に「丹波市生涯学習推進本部会議」を設置し、第1期計画に規定する基本目標達成に向けた具体的施策を展開し、本市における生涯学習の推進を図ることとしていました。

また、当推進本部の機能として、第1期計画の行動計画である「丹波市まなびの里づくりプラン」を策定し、庁内各部署に対して、生涯学習施策の実施指示及び施策の進捗管理を図ることと規定していました。

(2)丹波市まなびの里づくり協議会

第1期計画に規定する基本目標達成に向け、生涯学習活動を提供する多様な主体が協働し、本市における生涯学習の推進を図るために、丹波市まなびの里づくり協議会を設置していました。

まなびの里づくり協議会では、「丹波市まなびの里づくりプラン」への提言など、第1期計画に基づいた生涯学習の推進に関する協議を行う役割がありました。

(3)第1期計画期間の推進体制をふりかえって

平成27年度から令和6年度まで丹波市生涯学習推進本部会議による、進捗管理や、丹波市まなびの里づくり協議会における丹波市まなびの里づくりプランへの提言などを行うことによって、市の生涯学習施策を推進することとなっていました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策などにより、推進本部による「丹波市まなびの里づくりプラン」の策定を十分に行うことができない期間が生じることとなりました。

また、毎年度、庁内各部署に対して生涯学習関連事業調査を実施しており、丹波市まなびの里づくり協議会において、その調査についての意見のほか、令和6年3月28日には、「『生涯学習(まなび)を实践に生かす地域づくりの推進』に向けた取組について」の提言がなされました。

第3章 本市の生涯学習に関する現状

1. 生涯学習に関する市民の意識

丹波市生涯学習についてのアンケート調査 結果報告

本計画の策定にあたり、今後の生涯学習事業を推進していくための基礎資料とし、市民の学習活動の状況やその実態及び意識を明らかにする目的で「丹波市生涯学習に関するアンケート調査」を実施しました。

調査内容は、文部科学省の「生涯学習に関する世論調査(令和4年度調査)」を一部参考にしながら、個人の学習活動に関する状況や、地域における活動についての意識などについて調査を行いました。

また、「まなびを通じた『人づくり・つながりづくり・地域づくり』を支える人材について」の項目も新たに追加し、これからの時代における学びを支える人材についても市民の意識を調査しました。

1 調査地域	丹波市全域
2 調査対象者	満18歳以上の市民
3 抽出方法	住民基本台帳から 2,000 人を無作為抽出
4 調査期間	令和6年6月24日～7月12日
5 調査方法	アンケート用紙を送付／回答は郵送または web 回答

QRコード

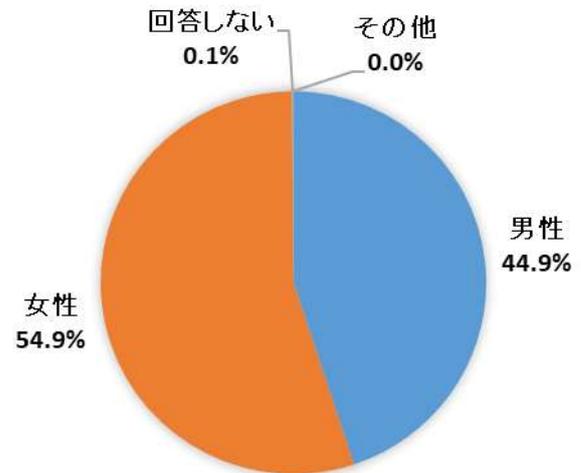
配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回収率
2,000	703 (内 web 回答 112 件)	35.2%	703	35.2%

- 回答結果の割合(%)は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から一つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N(number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。

回答者の基礎情報

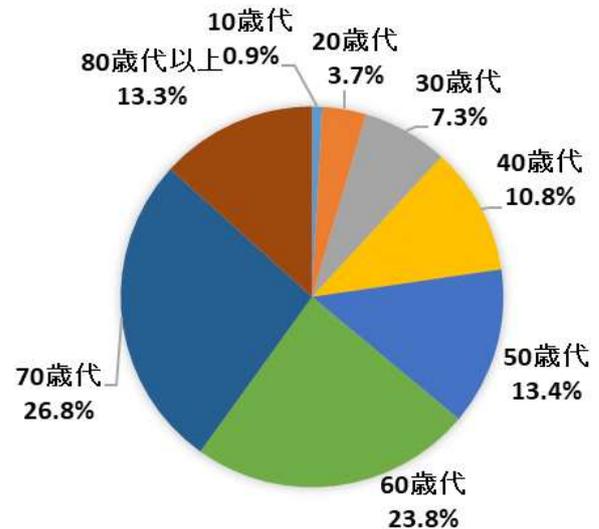
■性別

性別	人数	割合
男性	314	44.9%
女性	384	54.9%
回答しない	1	0.1%
その他	0	0.0%
無回答	4	
総計	703	



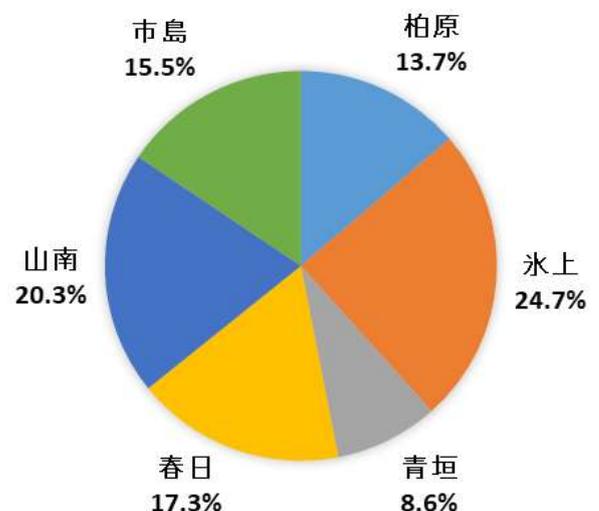
■年代

年代	人数	割合
10歳代	6	0.9%
20歳代	26	3.7%
30歳代	51	7.3%
40歳代	76	10.8%
50歳代	94	13.4%
60歳代	167	23.8%
70歳代	188	26.8%
80歳代以上	93	13.3%
無回答	2	
総計	703	



■住まい

住まい	人数	割合
柏原	96	13.7%
氷上	173	24.7%
青垣	60	8.6%
春日	121	17.3%
山南	142	20.3%
市島	109	15.5%
無回答	2	
総計	703	



あなたはこの1年くらいの中に、月に1日以上どのようなことを学習しましたか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

全体としては「健康やスポーツに関すること」、次いで「仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」についての学習を行っている割合が多い。

また、「学習していない」と回答している人が 201 人(29.6%)おり、学習している意識がない方が全体の約3割となっている。

この結果は、令和4年度に文部科学省で行われた「生涯学習に関する世論調査」でも上位3項目については近い割合を示していることが分かる。

有効回答数 680	人数	割合	世論調査 (R4)
仕事に必要な知識・技能や資格に関すること	223	32.8%	40.1%
インターネットの知識・技能に関すること	116	17.1%	20.4%
ボランティア活動に必要な知識・技能に関すること	56	8.2%	5.1%
自然体験や生活体験などの体験活動に関すること	59	8.7%	7.5%
人口減少や地球温暖化などの社会問題に関すること	53	7.8%	9.1%
健康やスポーツに関すること	243	35.7%	31.3%
料理や裁縫などの家庭生活に関すること	147	21.6%	23.1%
育児や教育に関すること	55	8.1%	11.7%
音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること	146	21.5%	22.9%
文学や歴史、語学などの教養に関すること	102	15.0%	16.2%
その他()	38	5.6%	4%
学習していない	201	29.6%	24.3%
無回答	23		

「学習していない」と回答した人については、平成 25 年度、令和元年度にも同様の調査を行っており、経年比較をすると、前回よりも学習をしていないと回答した人の割合は減少している。

	H25		R1		R6
学習していない	36.1%	▶	35.4%	▶	29.6%

あなたが学習をしていない理由はなんですか。
 特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

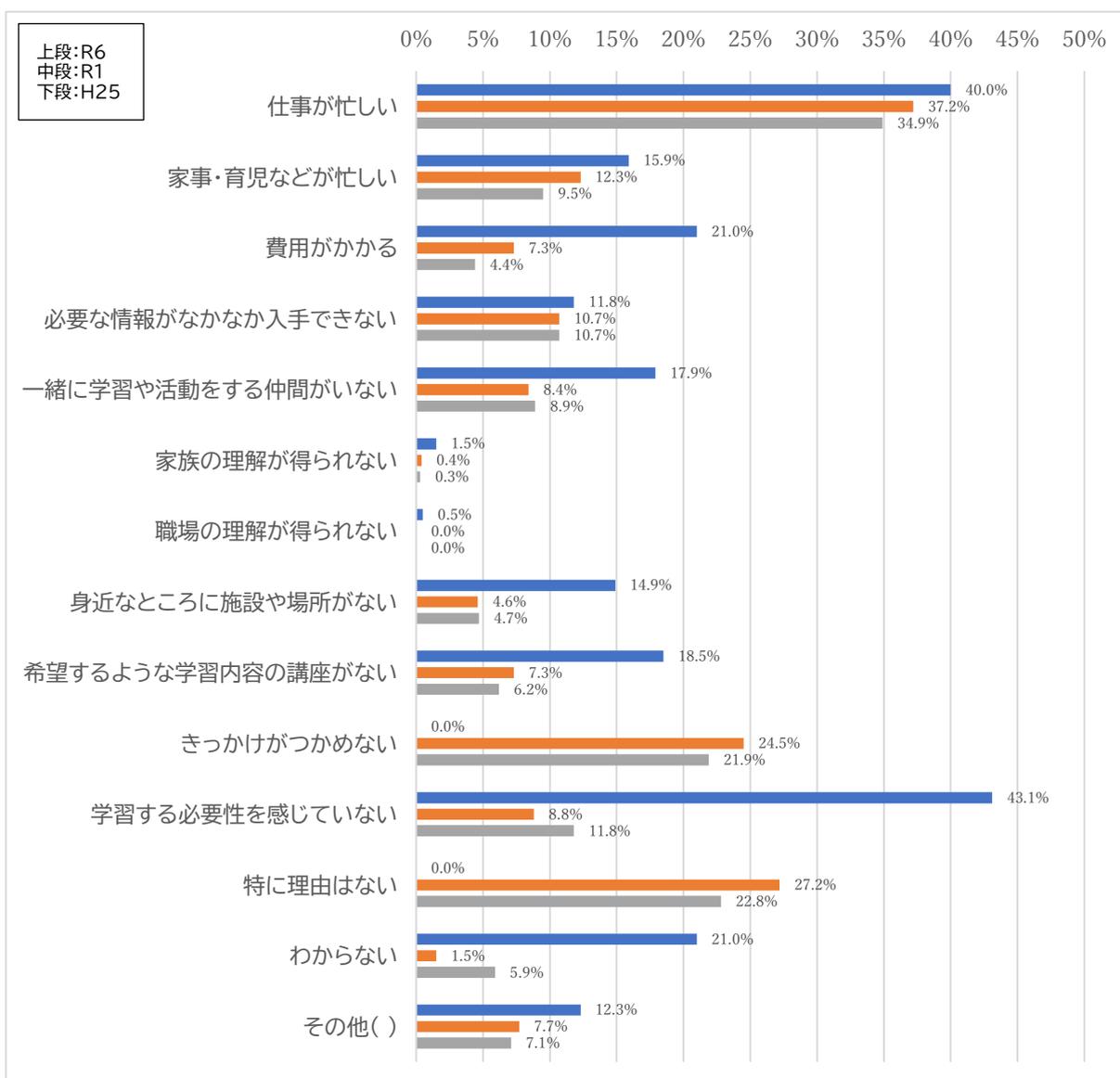
「学習する必要性を感じていない」と回答している人が 43.1%であり、最も選ばれている理由になります。その次に多いのは、「仕事が忙しい」という回答であり、全体の4割となっています。

また、「費用がかかる」「一緒に学習や活動をする仲間がない」「身近なところに施設や場所がない」「希望するような学習内容の講座がない」と回答した割合が前回よりも2倍以上になっています。

※「学習する必要性を感じていない」はR1、H25の調査では「特に学習を望んでいない」という問いとなっている。

※H25、R1では「あてはまるものすべてを選択」という条件で調査を実施している。

有効回答数 195



あなたは学習した成果をどのように生かしていますか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

10代～40代の若い世代は「仕事に役立てるため」と回答している人たちが多くみられる。
それに対し、50代以上の方は「健康づくりのため」と回答する人たちが多くみられた。
また、「社会に貢献するため」と回答したのは全年代において10%台である。

年代別	10代～20代 (N=26名)	30代～40代 (N=90名)	50代～60代 (N=174名)	70代以上 (N=172名)
家庭生活に役立てるため	42.3%	50.0%	43.7%	34.3%
社会に貢献するため	15.4%	17.8%	17.8%	11.0%
資格取得に役立てるため	34.6%	21.1%	8.0%	2.3%
老化防止のため	3.8%	3.3%	25.3%	52.3%
健康づくりのため	30.8%	26.7%	50.0%	61.6%
仕事に役立てるため	53.8%	65.6%	42.0%	14.0%
余暇を楽しく過ごすため	38.5%	20.0%	36.8%	43.0%
知識や技術を高めるため	42.3%	35.6%	31.0%	19.2%
友人や仲間づくりのため	7.7%	6.7%	11.5%	23.8%
地域や社会とのかかわりを深めるため	11.5%	11.1%	10.3%	17.4%
付き合いのため	0.0%	4.4%	1.7%	5.8%
その他	0.0%	0.0%	2.3%	1.2%

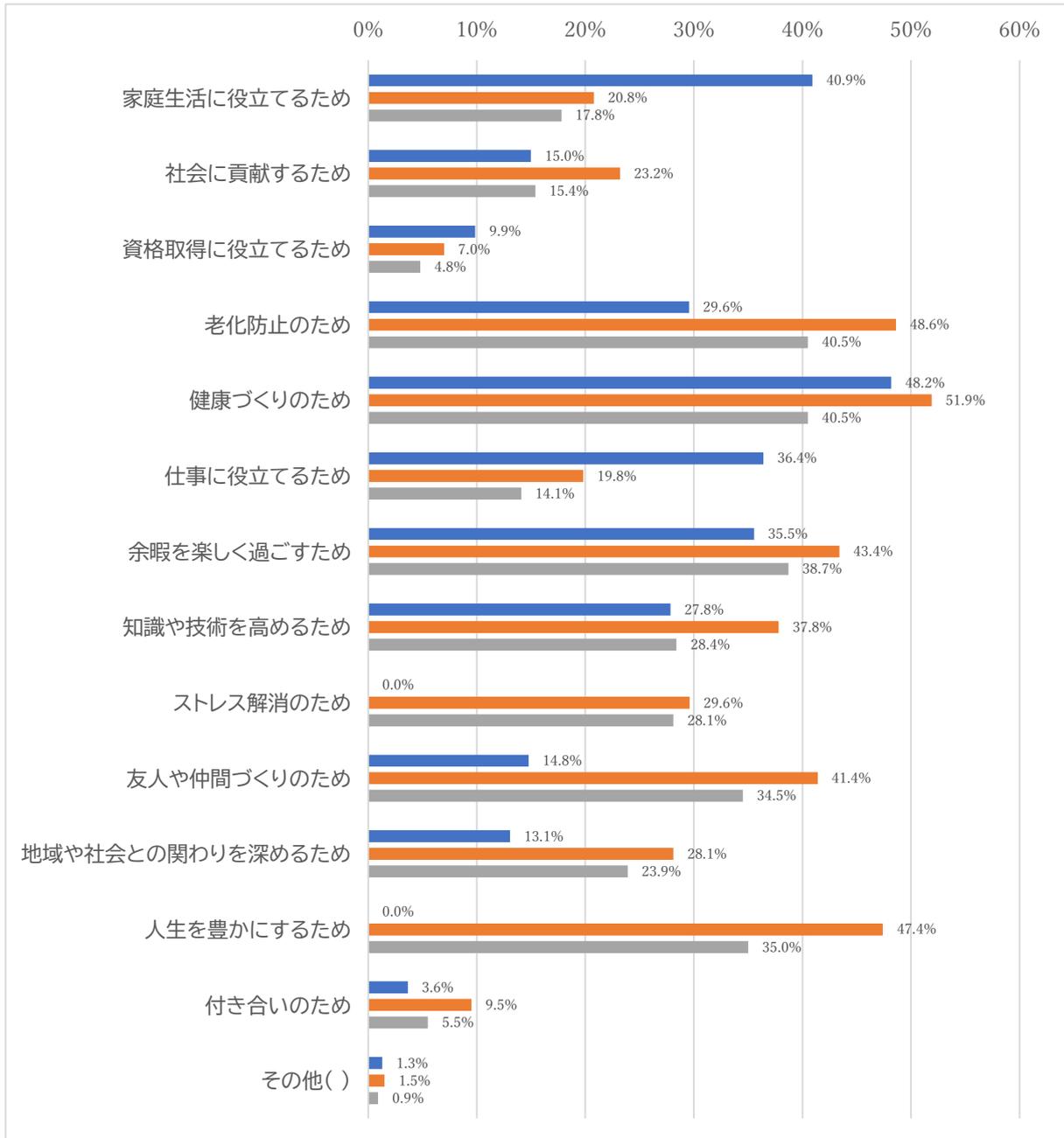
【その他欄】

・孫のため／農業／精神的充実のため／これからの世界がどうなるか考えるためなど

最も多かったのは「健康づくりのため」で、以下「家庭生活に役立てるため」「仕事に役立てるため」「余暇を楽しく過ごすため」と続いています。

一方、「社会に貢献するため」「友人や仲間づくりのため」「地域や社会との関わりを深めるため」については、前回と比較して、大きく割合を下げています。

上段:R6
中段:R1
下段:H25



※H25、R1では「あてはまるものすべてを選択」という条件で調査を実施している。

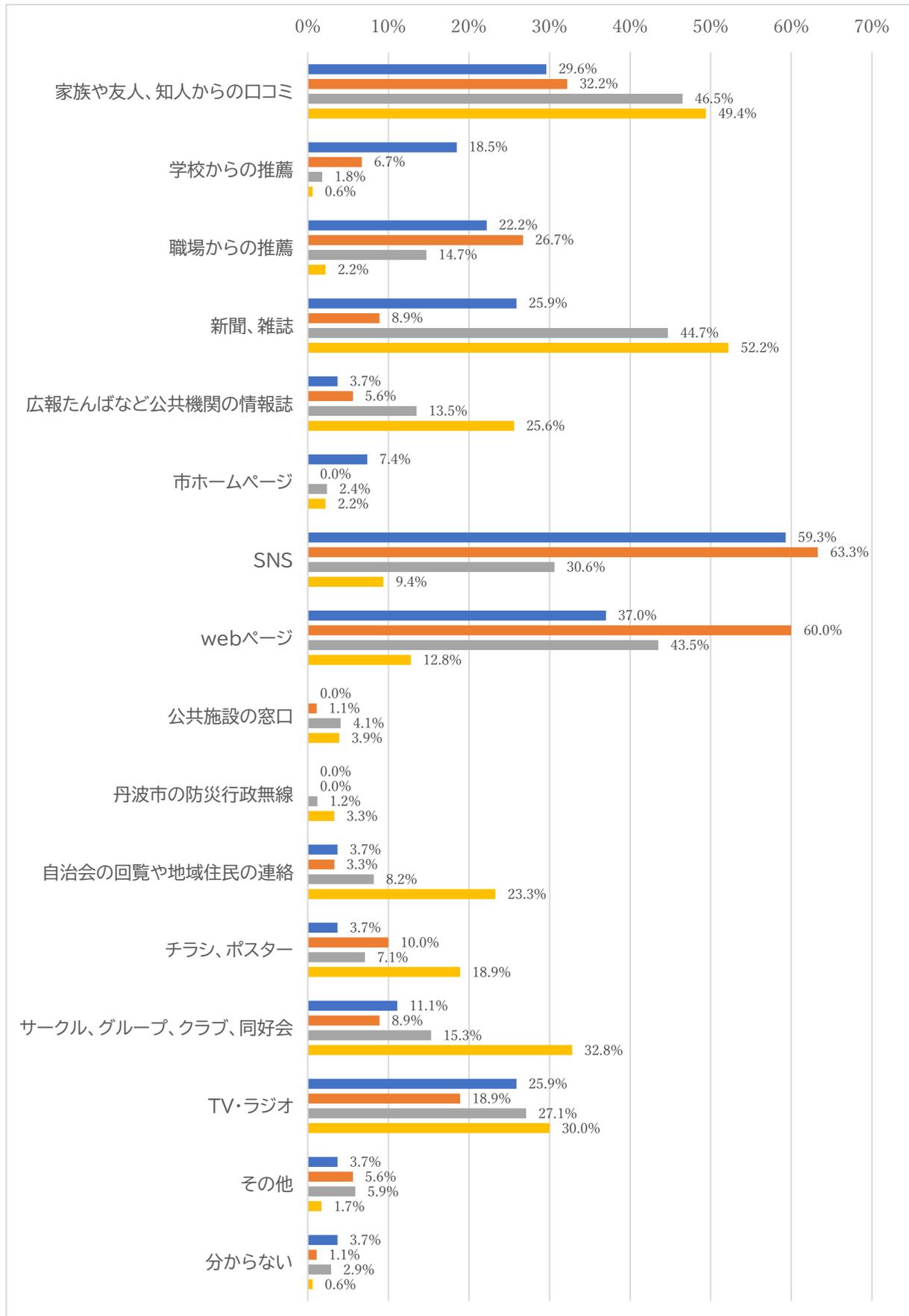
あなたは学習に関する情報をどこから得ていますか(複数回答)

10代～40代の若い世代では学習に関する情報をSNS中心に得ている一方で、市広報誌やホームページなど、行政から発信している情報については上手く届いていないことが考えられる。この結果から世代や媒体に応じた情報を得られる仕組みづくりが求められている。

年代別	10代～20代 (N=27名)	30代～40代 (N=90名)	50代～60代 (N=170名)	70代以上 (N=180名)
家族や友人、知人からの口コミ	29.6%	32.2%	46.5%	49.4%
学校からの推薦	18.5%	6.7%	1.8%	0.6%
職場からの推薦	22.2%	26.7%	14.7%	2.2%
新聞、雑誌	25.9%	8.9%	44.7%	52.2%
広報たんばなど公共機関の情報誌	3.7%	5.6%	13.5%	25.6%
市ホームページ	7.4%	0.0%	2.4%	2.2%
SNS	59.3%	63.3%	30.6%	9.4%
web ページ	37.0%	60.0%	43.5%	12.8%
公共施設の窓口	0.0%	1.1%	4.1%	3.9%
丹波市の防災行政無線	0.0%	0.0%	1.2%	3.3%
自治会の回覧や地域住民の連絡	3.7%	3.3%	8.2%	23.3%
チラシ、ポスター	3.7%	10.0%	7.1%	18.9%
サークル、グループ、クラブ、同好会	11.1%	8.9%	15.3%	32.8%
TV・ラジオ	25.9%	18.9%	27.1%	30.0%
その他	3.7%	5.6%	5.9%	1.7%
分からない	3.7%	1.1%	2.9%	0.6%

【その他欄】・本、専門書籍など／本屋／自治振興会活動から など

1段目:10代~20代
 2段目:30代~40代
 3段目:50代~60代
 4段目:70代以上



あなたが今後、学習を進めるにあたって、丹波市に求めることを教えてください。
 特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

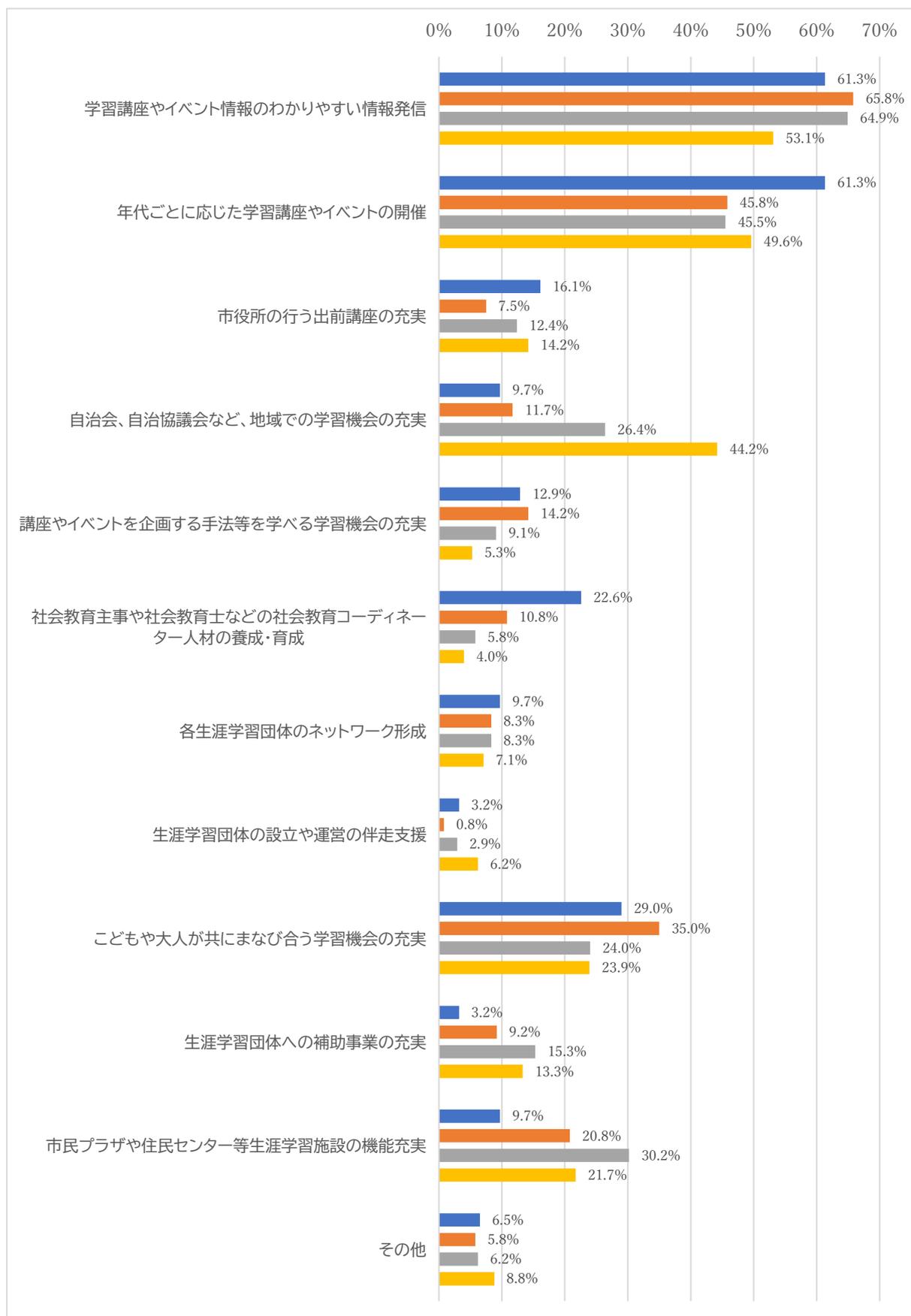
全年代を通じて半数以上の方が「学習講座やイベント情報のわかりやすい情報発信」を求めている。また、「年代ごとに応じた学習講座やイベントの開催」については、特に10～20代が高い傾向にあり、若い世代を対象とした学習講座やイベントの機会が十分でないと言える。一方で、「自治会や、自治協議会など、地域の中での学習機会の充実」は、70代以上が高く、自治会や自治協議会で開催される講座やイベントなどが参加しやすいと考えられる。

年代別	10代～20代 (N=)	30代～40代 (N=名)	50代～60代 (N=名)	70代以上 (N=名)
学習講座やイベント情報のわかりやすい情報発信	61.3%	65.8%	64.9%	53.1%
年代ごとに応じた学習講座やイベントの開催	61.3%	45.8%	45.5%	49.6%
市役所の行う出前講座の充実	16.1%	7.5%	12.4%	14.2%
自治会、自治協議会など、地域での学習機会の充実	9.7%	11.7%	26.4%	44.2%
講座やイベントを企画する手法等を学べる学習機会の充実	12.9%	14.2%	9.1%	5.3%
社会教育主事や社会教育士などの社会教育コーディネーター人材の養成・育成	22.6%	10.8%	5.8%	4.0%
各生涯学習団体のネットワーク形成	9.7%	8.3%	8.3%	7.1%
生涯学習団体の設立や運営の伴走支援	3.2%	0.8%	2.9%	6.2%
こどもや大人が共にまなび合う学習機会の充実	29.0%	35.0%	24.0%	23.9%
生涯学習団体への補助事業の充実	3.2%	9.2%	15.3%	13.3%
市民プラザや住民センター等生涯学習施設の機能充実	9.7%	20.8%	30.2%	21.7%
その他	6.5%	5.8%	6.2%	8.8%

【その他欄】

- ・子ども大人関係なく人として生きやすい町づくりの学習
- ・参加しやすい交通支援、各自治会集会所などに送迎車が来てもらうと参加してみようとなるかも
- ・学習は自分でやるものだと思う。20～30代までの人達にチャンスを与えてほしい。
- ・インターネットを通して発信 など

1段目:10代~20代
 2段目:30代~40代
 3段目:50代~60代
 4段目:70代以上



まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を推進していくためには、どのような人材が必要だと思いますか。(複数回答)

全年代を通じて「人と人をつなぐコーディネーター人材」を選択する人が半分以上を占めており、人と人をつなぐ役割が地域の中で求められている。

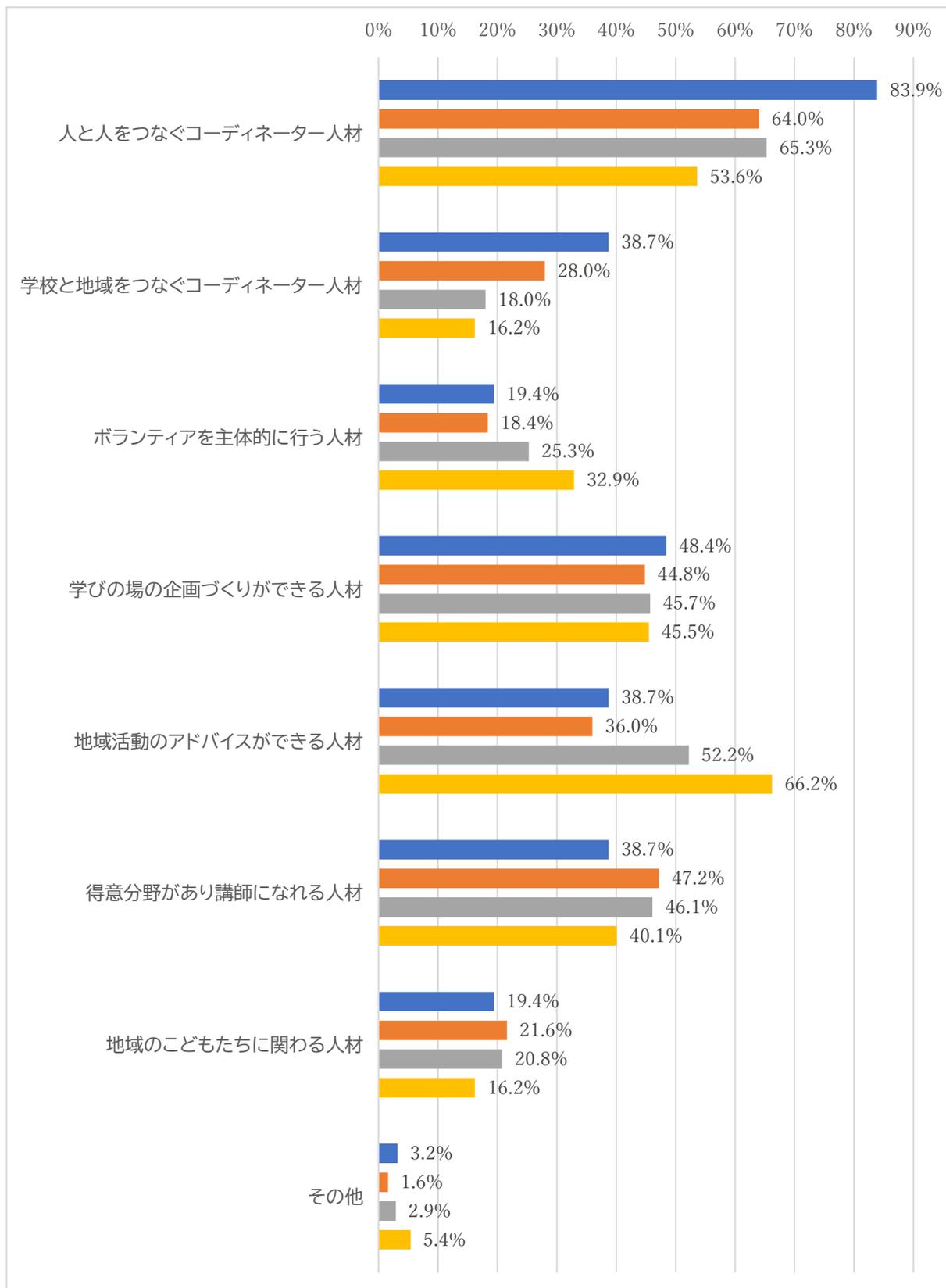
また、50代以上は「地域活動のアドバイスができる人材」を必要としている人が多く、地域の役職などにつくことが多い年代であり、地域活動を支える人材の育成が必要とされていることが考えられる。

年代別	10代～20代 (N=31名)	30代～40代 (N=125名)	50代～60代 (N=245名)	70代以上 (N=222名)
人と人をつなぐコーディネーター人材	83.9%	64.0%	65.3%	53.6%
学校と地域をつなぐコーディネーター人材	38.7%	28.0%	18.0%	16.2%
ボランティアを主体的に行う人材	19.4%	18.4%	25.3%	32.9%
学びの場の企画づくりができる人材	48.4%	44.8%	45.7%	45.5%
地域活動のアドバイスができる人材	38.7%	36.0%	52.2%	66.2%
得意分野があり講師になれる人材	38.7%	47.2%	46.1%	40.1%
地域の子どもたちに関わる人材	19.4%	21.6%	20.8%	16.2%
その他	3.2%	1.6%	2.9%	5.4%

【その他欄】

- ・魅力のある人間
- ・官・民・経をつなぐコーディネーター人材(初級地域公共政策士等)
- ・地域の歴史を語れる人
- ・地域の困りごとを相談、解決できる人材
- ・誰もが土日休みと考えない人
- ・地域の学びの経験がない など

1段目:10代~20代
 2段目:30代~40代
 3段目:50代~60代
 4段目:70代以上



あなたは「ウェルビーイング」・「こどもまんなか社会」・「共生社会」という言葉を知っていますか。また、自身の言葉で説明できますか。

ほぼ全てにおいてまだ言葉が認知されていない現状がある。

50代以上の方は「共生社会」については聞いたことがある人が多い。

年代別	10代～20代 (N=32名)	30代～40代 (N=125名)	50代～60代 (N=254名)	70代以上 (N=249名)
「ウェルビーイング」という言葉を知っており、説明ができる	3.1%	8.8%	9.1%	4.0%
「ウェルビーイング」という言葉は知っているが、説明はできない	15.6%	19.2%	16.1%	8.0%
「ウェルビーイング」という言葉を知らない	81.3%	71.2%	74.8%	88.0%

年代別	10代～20代 (N=31名)	30代～40代 (N=123名)	50代～60代 (N=243名)	70代以上 (N=235名)
「こどもまんなか社会」という言葉を知っており、説明ができる	3.2%	5.7%	8.2%	4.7%
「こどもまんなか社会」という言葉は知っているが、説明はできない	22.6%	14.6%	21.4%	23.8%
「こどもまんなか社会」という言葉を知らない	74.2%	78.9%	70.4%	71.9%

年代別	10代～20代 (N=31名)	30代～40代 (N=123名)	50代～60代 (N=245名)	70代以上 (N=240名)
「共生社会」という言葉を知っており、説明ができる	6.5%	13.8%	19.2%	17.9%
「共生社会」という言葉は知っているが、説明はできない	41.9%	38.2%	47.3%	50.8%
「共生社会」という言葉を知らない	51.6%	47.2%	33.5%	31.7%

教育に関するアンケート調査 結果報告

「第2次丹波市教育振興基本計画」が令和6年度に目標年度を迎えることから、令和7年度からの5年間で計画期間とする第3次計画の策定に向けて、教育や生涯学習についての現状や課題を把握するため本アンケートを実施しました。

対象は市内の小学5年生・中学2年生・高校生や市民を対象に調査を実施しています。本アンケートから見えてくる市民の生涯学習に関する意識について、内容を一部抜粋しながら計画策定の参考にいたします。

1 調査概要

アンケート種別	対象者	回答方法	調査期間
小学生アンケート	丹波市の小学5年生	2次元コードからWebで回答	令和6年1月9日(火)～1月16日(火)
中学生アンケート	丹波市の中学2年生		令和6年1月10日(水)～1月31日(水)
高校生アンケート	丹波市内の県立高等学校及び県立特別支援学校高等部の生徒		
市民アンケート	丹波市に在住・在勤、在学の方		令和5年12月26日(火)～1月31日(水)

2 回収結果

アンケート種別	対象者数	回答数	回答率(%)
小学生アンケート	496	441	88.9
中学生アンケート	503	345	68.6
高校生アンケート	1020	645	63.2
市民アンケート	—	517	—

※市民アンケートについては、アンケート調査に関する案内チラシを対象者へ直接送付するなどしていないため回答率を算出していません。

教育に関するアンケート調査 結果報告書
(丹波市ホームページ内)



【市内の小学5年生と中学2年生の回答】

あなたは今住んでいる地域(校区や丹波市内のよくいく場所)について、どう思っていますか。

小・中学生が、今住んでいる地域をどのように感じているかについては、「安全に通学できる、生活できる」(小5:95%、中2:90%)や、「見守ってくれる人がいる」(小5:90%、中2:85%)、「楽しいイベントや祭りがある」(小5:87%、中2:81%)が肯定的な回答が多い。地域住民とのかかわりによる安心・安全や楽しさを感じ取っている児童生徒が多いことが伺える。一方、「公園など遊ぶ場所がある」(小5:12%、中2:23%)や「やりたいスポーツをする場所がある」(小5:14%、中2:17%)、「行きたい図書館や美術館、博物館などがある」(小5:26%、中2:21%)は、否定的な回答がやや多い。子どもたちが、地域でもっと遊んだり、運動したり、学んだりする場所や機会を求めていることを望んでいることが伺える。

小学5年生の回答

【上段:人数(人)、下段:割合(%)】

	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
安全に通学できる、生活できる	320	97	16	7	1
	73%	22%	4%	2%	0%
	95%		2%		
公園など遊ぶ場所がある	253	89	46	28	25
	57%	20%	10%	6%	6%
	77%		12%		
やりたいスポーツをする場所がある	218	74	87	23	39
	49%	17%	20%	5%	9%
	66%		14%		
やりたい習い事や勉強をする場所がある	262	83	54	16	26
	59%	19%	12%	4%	6%
	78%		10%		
行きたい図書館や美術館、博物館などがある	137	109	81	38	76
	31%	25%	18%	9%	17%
	56%		26%		
楽しいイベントや祭りなどがある	295	90	37	9	10
	67%	20%	8%	2%	2%
	87%		4%		
一緒に活動する地域の人がある	207	116	81	15	22
	47%	26%	18%	3%	5%
	73%		8%		
見守ってくれる地域の人がある	315	82	29	9	6
	71%	19%	7%	2%	1%
	90%		3%		

中学2年生の回答

【上段:人数(人)、下段:割合(%)】

	そう思う	ややそう 思う	どちらで もない	あまりそう 思わない	そう思わ ない
安全に通学できる、生活できる	193	117	25	8	2
	56%	34%	7%	2%	1%
	90%		3%		
公園など遊ぶ場所がある	115	96	55	46	33
	33%	28%	16%	13%	10%
	61%		23%		
やりたいスポーツをする場所がある	126	88	73	35	23
	37%	26%	21%	10%	7%
	63%		17%		
やりたい習い事や勉強をする場所がある	127	131	64	15	8
	37%	38%	19%	4%	2%
	75%		6%		
行きたい図書館や美術館、博物館などがある	96	107	72	33	37
	28%	31%	21%	10%	11%
	59%		21%		
楽しいイベントや祭りなどがある	157	120	39	19	10
	46%	35%	11%	6%	3%
	81%		9%		
一緒に活動する地域の人がある	111	114	85	20	15
	32%	33%	25%	6%	4%
	65%		10%		
見守ってくれる地域の人がある	178	114	44	5	4
	52%	33%	13%	1%	1%
	85%		2%		

【市内の小学5年生と中学2年生の回答】

あなたは、どのような地域がいいなと思いますか。(主なもの3つまで選択可能)

子どもたちが地域に願うことについては、「楽しいイベントや祭りがある地域」(小5:67%、中2:52%)、「安全に通学できる、生活できる地域」(小5:65%、中2:47%)が多く、次いで「公園など遊ぶ場所がある地域」(小5:51%、中2:40%)、「やりたいスポーツをする場所がある地域」(小5:30%、中2:40%)が多い。

小学5年生の回答

【上段:人数(人)、下段:割合(%)】

(主なものを3つまで選択)	人数(人)	割合
安全に通学できる、生活できる地域	285	65%
公園など遊ぶ場所がある地域	225	51%
やりたいスポーツをする場所がある地域	131	30%
やりたい習い事や勉強をする場所がある地域	79	18%
行きたい図書館や美術館、博物館などがある地域	65	15%
楽しいイベントや祭りなどがある地域	294	67%
一緒(いっしょ)に活動する地域の人がある地域	51	12%
見守ってくれる地域の人がある地域	132	30%
その他	7	2%

中学2年生の回答

【上段:人数(人)、下段:割合(%)】

(主なものを3つまで選択)	人数(人)	割合
安全に通学できる、生活できる地域	208	47%
公園など遊ぶ場所がある地域	177	40%
やりたいスポーツをする場所がある地域	149	34%
やりたい習い事や勉強をする場所がある地域	71	16%
行きたい図書館や美術館、博物館などがある地域	52	12%
楽しいイベントや祭りなどがある地域	229	52%
一緒(いっしょ)に活動する地域の人がある地域	34	8%
見守ってくれる地域の人がある地域	63	14%
その他	4	1%

【高校生の回答】

あなたは、普段、地域の人たちとどのように接したり、交流したりしていますか。
(あてはまるものすべて選択可能)

高校生が、今住んでいる地域とのつながりをどの程度持っているかについては、「出会ったときにあいさつをしている」が91%と、気軽に挨拶を交わす関係を築いていることが伺える。また、「地域の行事やイベントに参加し、交流したり、一緒に活動したりしている」(21%)、「出会ったときに声をかけたり話をしたりしている」(15%)、と、より密接な関係を持つ生徒も一定数いることが伺える。一方、「地域の人達と接したり、交流したりすることはほとんどない」も1割弱存在する。

(当てはまるものを全て選択)	人数(人)	割合
出会ったときにあいさつをしている	584	91%
出会ったときに声をかけたり話をしたりしている	98	15%
困ったときや悩んでいるときに相談にのってもらっている	49	8%
スポーツや芸術・伝統文化・伝統芸能などを教えてもらっている	44	7%
地域の行事やイベントに参加し、交流したり、一緒に活動したりしている	134	21%
地域の人達と接したり、交流したりすることはほとんどない	55	9%
その他	2	1%

2. 生涯学習をとりまく社会情勢の変化と丹波市の現状

(1) 経緯・背景

人口減少や少子高齢化に伴い、地域においては、住民自治における担い手の減少や負担の増加などが課題として挙げられています。また、生き方や価値観は多様化し、物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさが求められるなど、多様なニーズやそれに伴う様々な社会課題が生まれています。また、新型コロナウイルス感染症により、自治公民館の活動が中止・縮小など、対面での機会が減少し、住民同士のつながりの希薄化をもたらしたとも言えます。

住み慣れた町で暮らし続けるために、住民は行政サービスを受けるだけでなく、自らが主体的に地域のあり方について話し合いを通して考えることが必要となっています。そのために、住民同士の対話の場や学びの場を通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を進めていくことが求められています。

その実現に向けて、丹波市においては、学びの場に関する情報発信を強化するとともに、多様なニーズに応える学びの場づくり、人々が楽しく学び合える場づくりを支える人材の育成が必要です。

(2) 国における生涯学習施策の動向

○中央教育審議会

平成30年12月に中央教育審議会で答申が出された「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」では、地域における社会教育の目指すものとして「『社会教育』を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり」が示され、①住民の主体的な参加のためのきっかけづくり、②ネットワーク型行政の実質化、③地域の学びと活動を活性化する人材の活躍により「開かれ、つながる社会教育の実現」という方向性が示されました。

令和6年6月25日には、社会教育人材部会にて「社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について」の最終まとめがされており、同年7月には最終まとめを踏まえた対応について全国に通知されています。

また、先の最終まとめと同日、「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」が文部科学大臣から中央教育審議会へ、主に「社会教育の新たな在り方の見直し、社会教育が果たすべき役割、担い手である人、その活動、国・地方公共団体における推進方策等について」の諮問が行われました。現在、中央教育審議会生涯学習分科会社会教育の在り方に関する特別部会にて審議が行われています。

文部科学省HP

「社会教育人材の養成及び活躍促進の

在り方について(最終まとめ)」関連ページ▶



文部科学省HP

「地域コミュニティの基盤を支える

今後の社会教育の在り方と推進方策について(諮問)」▶



○第4次教育振興基本計画

令和5年度に閣議決定された第4期教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2つのコンセプトが示されました。ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められています。そして、生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点の重要性が記されています。

同計画における5つの基本的な方針の一つに「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」が示されています。ここでは「一人ひとりの多様なウェルビーイングの実現のためには、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す学びを、学校をはじめとする教育機関の日常の教育活動に取り入れていく必要がある」とされています。また、「誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、高め合い、他者のウェルビーイングを思いやることのできる教育環境を個々の状況に合わせて整備すること」が重要であるとしています。

このように、異なる価値観や考えを持った人々が、学び合い、多様性を受け入れるための「学びの土壌」を耕すことで、誰もが自分の「やりたい」を形にするための学びに取り組むことができ、自分と他者のウェルビーイングの実現につながります。また、教育政策の目標には「学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」や「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」が掲げられており、地域コミュニティの基盤強化には、地域住民の「学び」が重要な役割を担うこと、社会教育士等の社会教育人材の養成・活躍機会拡充が必要であるとされています。その手法の一つとして、国では「学校を核とした地域づくり」を実現するための「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」が示されています。

(3)県における生涯学習施策の動向

○第4期ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)

兵庫県教育委員会では、令和6年3月に「第4期ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」が策定され、基本方針1「予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進」が掲げられています。その基本的方向の9「人生100年を通じた学びの推進」では、地域コミュニティの基盤形成や地域課題を解決するために、「社会教育を支える人材の養成」や「行政、NPO(非営利団体)、大学、企業等の多様な主体との連携・協働」が必要であることが示されました。

(4)市における生涯学習施策の動向

○「生涯学習」と「地域づくり」

旧小学校区単位に「自治協議会(自治振興会)」が置かれ、地域を中心に「健康・環境・教育」をテーマとしてそれぞれの特徴を活かした地域づくり事業が展開されています。

平成22年度には、丹波市総合計画の将来像・基本理念を実現していくことを目的に市民、議会、行政などを中心とした「参画と協働プロジェクト」が立ち上がり、その議論を

まとめた「参画と協働の指針」が策定されました。本プロジェクトの具体的な取組として「丹波市自治基本条例」の制定があり、本条例では、「市民主体のまちづくり」や「一人ひとりの人権の尊重」などが明記されています。さらに、本条例の第21条「生涯学習」では、「市民は、豊かな人間性を育み、生活の充実や技能の向上などを図るとともに、市政やまちづくりに参画するための知識や考え方を学ぶため、生涯を通じてさまざまな学習を行う権利」を持ち、「市長等は、市民の学習の機会を確保するとともに自主的な学習活動を支援するよう努めなければなりません」と規定しています。

このように、本市においては「生涯学習」と「地域づくり」が根強くつながっています。その考えに基づいて、行政内部の体制や、自治協議会の機能なども整理されてきました。

○知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり

平成27年4月には、本条例の第21条を具現化する第1期計画を策定し、「たんばにひろげる まなびの輪」を基本理念に、これまでに展開してきた市民の生涯学習活動や地域づくり活動への成果、課題を踏まえ、市民が住みやすいまちづくりの担い手として、主体的に学び、学んだ成果をまちづくりの実践に生かし、さら実践の中から生じた課題へと挑戦し学ぶ“知識循環型生涯学習”の実現に向けた施策を市民や様々な団体等と協働して推進してきました。

○「知識循環型生涯学習の拠点」として市民活動支援センターの設置

令和2年10月22日から第1期計画にて示した「知識循環型生涯学習」の拠点としての機能を持つ「丹波市市民活動支援センター」を設置し、令和4年度からは指定管理者制度により、市民が主体的に学び、学んだことをまちづくりの実践に生かせるよう、市民とともに学びや対話の場づくりなどによる生涯学習支援を行っています。

また、同センターは「地域づくり事業支援の拠点」「市民活動連携の拠点」としての機能も持ち、地域づくり支援・市民活動支援・生涯学習支援を行っています。

○生涯学習についての他団体からの提言

令和5年3月24日に「丹波市社会教育委員の会議」から「『地域学校協働活動』の展開に向けた取組について」の提言がなされました。提言の内容には、「地域・学校・行政のパートナーシップを構築すること」や「子どもと大人が学び、育ちあう場となっていること」、「コーディネーターが有効に機能していること」などの内容がまとめられ、提言されています。

○丹波市まなびの里づくり協議会からの提言

令和6年3月28日には第1期計画における市民主体の協議の場である「丹波市まなびの里づくり協議会」から「『生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進』に向けた取組について」の提言がなされました。ともに、「学校・地域・家庭の連携協働」や、「活動を推進するコーディネーターの育成と活躍」についての内容が提言されています。

3. 丹波市における生涯学習施策の課題

市民一人ひとりがいきいきと活躍する「めざす市民像」や地域が活力を持ち続ける「めざすまちの姿」の実現をめざして、「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」を市民と行政が協働し、生涯学習の諸施策の積極的な推進が求められています。

市民意識調査では、生涯学習をしない理由に「仕事が忙しい」という回答が前回、前々回に引き続いて多くなっており、このことが生涯学習の大きな阻害要因となっています。その一方で「学習する必要性を感じていない」という回答も増加しており、生涯学習への関心が薄く、身近に感じていない市民の割合も高くなっていきます。

市民の主体的な生涯学習活動を活性化させるためには、様々なニーズに応じた学習機会の提供はもとより、その情報を市民が容易に取得できる環境を整備する必要があります。市民はその時々に必要な情報を得て、必要な知識や技能を習得することにより、生涯学習の理念のもとに学習を積み重ね、相互に関連させることで、より豊かな人間性を育むことが必要です。

また、生涯学習をしない理由に「一緒に学習や活動をする仲間がいない」という回答も前回より増加しており、生涯学習を通じて「つながりづくり」や「人づくり」につなげていく取組が必要となっています。

生涯学習の成果を地域課題の解決に活かす市民を育むためには、まずは生涯学習に取り組む市民を増やす必要があります。その実現のためには、市民にとって学ぶことの楽しさが実感できる生涯学習の推進が必要です。このことから、知識循環型生涯学習のサイクルに”誰もが楽しく学べる“の視点を加えた施策や取組の展開が必要です。

○様々なニーズに応じた学習機会の提供

生涯学習は、あらゆる世代が、あらゆる場で、自ら進んで行う学習活動のことであり、仕事や育児に取り組むための知識や技能の習得、さらには家庭や地域での風習や伝統などの継承も生涯学習に含まれ、市民が生涯を通じて行うすべての学びを意味しています。このため、様々なニーズに応じた学習機会の提供が必要です。なお、趣味や健康づくり、文化芸術やスポーツなど、市民の関心の高いテーマについては、生涯学習に接したことがない市民を引き付ける可能性を持つものであることから、それぞれのテーマに沿って企画するなど、多様なニーズに応じた配慮が必要です。

○世代や対象に合わせた情報発信の実施

市が発信する生涯学習に関する情報が市民にうまく伝わっていない現状があります。また、世代によって情報を受け取る媒体に違いがあり、それぞれの世代に応じた情報発信が必要です。

○人と人がつながり、認め合う対話の場づくり

第1期計画では、学ぶ人を増やし、主体的に学ぶ力を高め、学んだ成果を活かすこと

ができるための環境整備をしてきました。これからは、生涯学習での学びが自分だけのためではなく、対話を通して他者を思いやり、ともにありたい社会をつくることが大切になります。そのためには、こどもも大人も共に楽しく学び合い、自分と相手の違いを受け入れ、認め合う機会が求められています。地域の中で年齢・性別・国籍の違いや障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる対話の場を増やしていくことが必要です。

○学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材の育成

生涯学習は市民が楽しみながら地域づくりに参画・協働できる機会を生み出すきっかけとなります。

「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」を実現するためには、市民が学んだ成果を地域づくりに活かすことが必要です。そのためには、市民の生涯学習活動を支え、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える社会教育に関わる人材の育成や、「社会教育士」や「地域学校協働活動推進員」等のコーディネーターの活躍促進が必要です。

○地域・家庭・学校の連携・協働の推進

これまで、本市においては人口減少や少子高齢化など様々な社会の変化を受け止め、「生涯学習」と「地域づくり」が密接に関係しながら、市民の生涯学習の支援に取り組んできました。

これからは、生涯学習が単なる個人の幸福追求だけにとどまらず、学んだ成果を発揮するための役割と出番をつくる必要があります。そのためには、こどもも大人も共に楽しみながら学び合い、認め合うことが大切であり、地域・家庭・学校の連携・協働の取組が必要です。

以上の課題を踏まえ、年齢・性別・国籍の違いや障がいの有無に関わらず、誰もが他者を尊重し、こどもから大人までが共に楽しく学び合うことができる「学びの土壌」が豊かになることが大切です。そして、誰もが「やりたい」を形にするために、学んだ成果を発揮できる役割や出番が、身近にあることが必要とされています。丹波市がそのようなまちになることで、市民と地域全体のウェルビーイングの実現に近づいていきます。

ちょこっとコラム②

学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりを支える「社会教育士」



社会教育士

社会教育士とは、令和2年度からスタートした、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割を果たす専門人材の称号です。

これから変化する社会において、地域の課題を解決し続けていくためには、そこに暮らす人々が「自分ごと」として、地域活動や市民活動に参画することが求められています。しかし、地域の課題を全面に出して取り組もうとすると、そこに暮らす人々の関心が高まりにくく、受け身の取組になってしまいがちです。

そのため、そこに暮らす人々が「自分ごと」として取り組めるようにするためには、「地域をおもしろくしたい」、「新たな人に出会いたい」など、前向きな気持ちや楽しみたいという気持ちが大切です。そのような前向きな気持ちがたくさん存在していないと、こどもも大人も、地域も成長していくことはできないと言えます。社会教育士は、地域の課題をそこに暮らす人々が「自分ごと」とするための「意識の変化」をもたらす、「学び」の仕掛けをする存在です。地域づくりにおいては、解決の手順を考えることや、解決に取り組むための人材の育成など、社会教育がとても重要になります。

社会教育士は、社会教育主事講習の受講要件を満たしている方は、講習を修了することで、どなたでも得られる称号です。これからは、行政はもちろん、企業、市民活動、ボランティア活動などのあらゆる場所において社会教育士の活躍が求められています。丹波市内でも社会教育士の活動が始まっており、対話の場づくり、教育に関する審議会の間などで活躍しています。

第4章 基本構想

1. 基本理念

やりたいことが、このまちにある こどもも大人もワクワクしながら学び合うまち

【 基本理念に込めた思い 】

みなさんにとって「やりたいこと」とはなんでしょうか。

人生において、人が「学ぶ」理由は趣味などを見つけ深めるため、自身の望む進学や就職を叶えるため、子育てのためなど様々です。そのどれもが一人ひとりにとっての「やりたいこと」であり、人生を楽しく生きるための生涯学習活動と言えます。

人には、様々な考え方や価値観があり、そのどれもが認められることが当たり前であり、あなたの「やりたいこと」は、他者に否定されるものではありません。

本計画の基本理念では、こどもから大人までのすべての市民が生涯学習を通じて楽しく学ぶことができ、自発的な学びや自己実現ができることを入り口に、人と人が互いを認め合いながらつながり、一緒に活動していく過程を通じて、一人ひとりが暮らし続けたいと思える地域の基盤をつくることをめざしています。

市民一人ひとりがこのまちで「やりたいこと」を見つけ、暮らし続けたいと思えることや、ワクワクした毎日を送ることができるよう、市民や団体、企業等と連携しながら、こどもから大人までが「対話」を通じて学び合える「学びの土壌」を耕し、「市民と地域全体のウェルビーイングの実現」と「持続的な地域コミュニティの基盤形成」を目指します。

2. めざす方向性

1. 誰もが楽しみながら学ぶことができる学びの環境づくり

キーワード

楽しく
学ぶ

生涯学習活動を通じて、誰もが楽しみながら学ぶ場があることが市民一人ひとりの自己実現や生活の充実につながります。

また、学びを通じて、市民が身近な課題に取り組むことや、学びの場をつくることを支えます。そのために、こどもから大人までが語り合い、学び合う「対話」の場づくりを推進します。

2. みんなの「やりたいこと」を支える人づくり・つながりづくり

キーワード

ワクワクして
つながる

学び合いを生み出し、広げるためには、学び合う人たちのつながりや、地域の「ひと」「組織」などをゆるやかにつなげるコーディネーターが必要です。市民一人ひとりの「やりたい」を応援するために市民同士がつながる機会と、人と人をつなげる人材の育成と、活躍する機会づくりを推進します。

3. 学んだ成果を活かしながら活躍できる地域づくり

キーワード

一緒に
やってみる

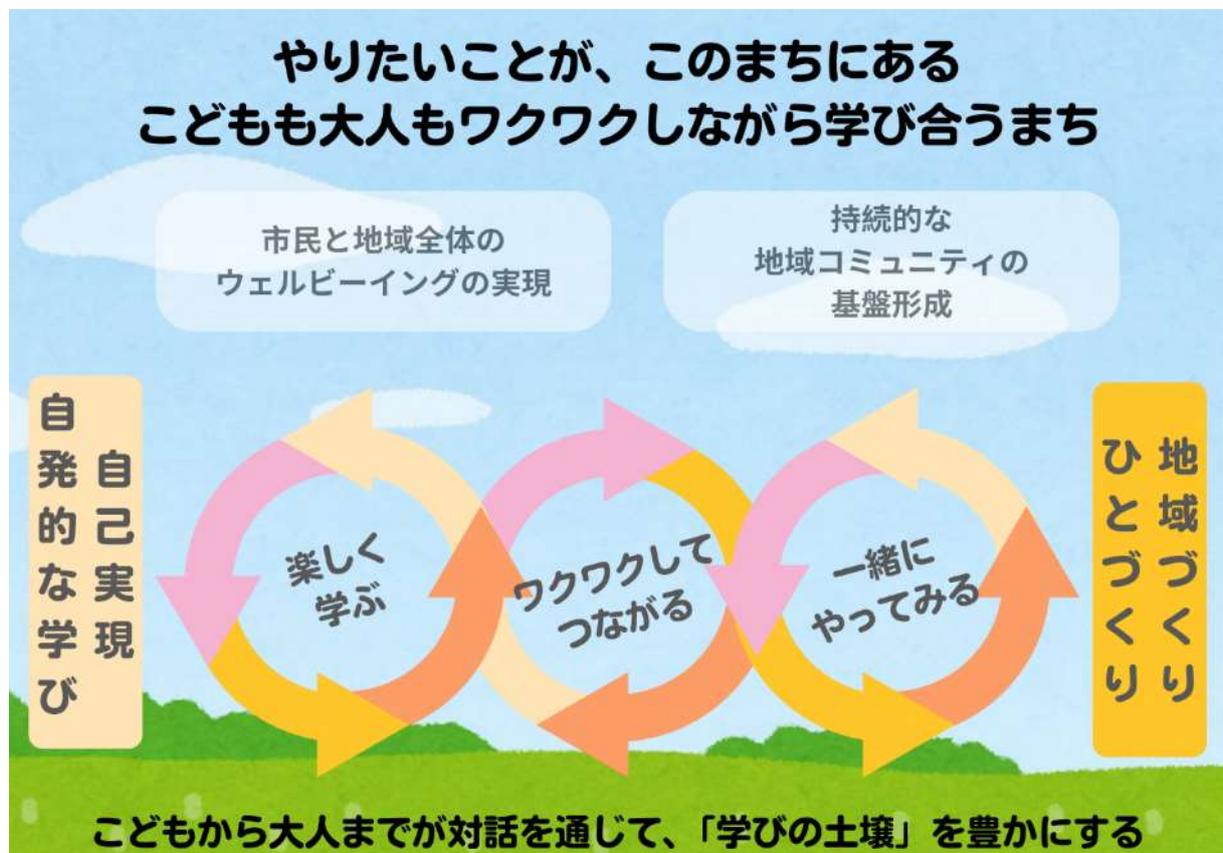
誰にもが気軽に「やりたい」と言える地域になるために、学びを通じて、地域・家庭・学校がつながり、こどもから大人まで共に楽しく学び合える、それぞれの地域に根差した地域づくりを推進します。

3. 基本理念とめざす方向性についてのイメージ図

ここまで、基本理念をもとにめざす方向性を整理してきました。

下のイメージ図では、市民一人ひとりが生涯学習活動を通じて、自己実現を図るために楽しく学ぶことを入り口に、それぞれの生涯学習活動が様々な人とつながり合うことで、一緒に何かをやってみるきっかけになることを示しています。人と人とがつながり、一緒に何かをやってみることは地域や社会でさらなるつながりを生みます。誰もが年齢や性別、国籍の違いや障がいの有無などに関わらず認め合いながら学びを生み出していくことが、「市民と地域全体のウェルビーイングの実現」や「持続的な地域コミュニティの基盤形成」を支えます。市民一人ひとりの思いが否定されず、このまちで自分の「やりたいこと」を見つけることができ、それぞれがつながり合い、こどもから大人まで誰もがワクワクしながら学び合うことができるまちになるということをイメージして作成しています。

また、この考え方を支えるものとして、人との価値観や考え方の違いを認め合い、互いに安心してつながり、学び合うための「学びの土壌」を豊かにすることが重要であり、この土壌を耕す営みが人と人の「対話」であることを体系図の中に示しました。



ちょこっとコラム③

地域のゆるやかなつながりと対話が 「学びの土壌」を豊かにする



「学びの土壌」とは、何を学べるのか、どのように学べるのかという学習内容ではなく、誰と学べるか、どんな環境で学べるのかといった、一緒に学びに取り組む人との人間関係の状態や、安心して発言できるといった学びの場における雰囲気などを指しています。

「学びの土壌」が豊かな場では、失敗しても大丈夫という前提が保障されており、子どもから大人までが前向きにチャレンジできる雰囲気によって、誰もが成長を感じることができ学習環境が生まれます。

誰もが成長を感じることができ「学びの土壌」を耕すためには、次の4つのポイントを理解しておくことが大切です。1つ目は誰もが話しやすく、挑戦しやすい環境をつくる「安心・安全の土壌」、2つ目は互いの考え方を交差させる「対話の土壌」、3つ目は協働や連携を生み出していく「多様性の土壌」、4つ目が地域や社会に対して「開かれた土壌」です。

特に、「対話」や「話し合い」の中で生まれる新たな発見、多様な価値観や考えに触れることは、「学びの土壌」を耕すために必要な取組です。

具体的な取組として、地域・家庭・学校がゆるやかにつながるネットワークづくりが大切であり、そのためには「対話の場」や「話し合いの場」が不可欠となります。そのプロセスの中で生まれる「学び」の循環が、土壌を豊かにする養分となり、子どもたちの学習意欲を高めることや、個人と地域全体のウェルビーイングを実現することにもつながっていきます。誰もが学びを通じてつながり、自己の成長を感じ、暮らしやすい地域づくりに関わるができる環境が整っていきます。

4. 施策体系一覧

【基本理念】

やりたいことが、このまちにある
こどもも大人もワクワクしながら学び合うまち

キーワード

楽しく
学ぶ

誰もが楽しみながら学ぶことができる学びの環境づくり

具体的な施策

- ① 様々なニーズに応じた楽しい学びの場づくり
- ② こどもから大人までがゆるやかにつながる対話の場づくり
- ③ 学びの機会や団体についてのさらなる情報発信
- ④ デジタル社会に対応した生涯学習事業の推進
- ⑤ 誰もが楽しく学ぶことができる環境づくり

めざす方向性

ワクワクして
つながる

みんなの「やりたいこと」を支える人づくり・つながりづくり

具体的な施策

- ① 学びを通じた「ひと」と「ひと」をつなぐ仕組みづくり
- ② 「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材の育成と活躍機会の促進
- ③ 市民の学びを支える人材同士のネットワークづくり
- ④ 市民の学びを支援する機能の充実

一緒に
やってみる

学んだ成果を活かしながら活躍できる地域づくり

具体的な施策

- ① 地域・家庭・学校がつながる「地域教育ネットワーク」の推進
- ② 地域課題解決に向けた市民や団体、企業などとの連携・協働
- ③ 誰もが「やりたい」と言え、「やりたいこと」を支える人がいる地域づくり
- ④ 学びを通じた「参画」と「協働」のまちづくり

こどもから大人までが対話を通じて、「学びの土壌」を豊かにする

第5章 計画の推進

1. 誰もが楽しみながら学ぶことができる学びの環境づくり

楽しく
学 ぶ

誰もが楽しみながら学ぶ場があり、生涯学習を通じて、市民一人ひとりの自己実現を目指すことができる環境づくりや、こどもから大人までが語り合う「対話」の場づくりを推進します。

①様々なニーズに応じた楽しい学びの場づくり

○年齢・性別・国籍の違いや障がいの有無などに関わらず、市民がそれぞれの生涯学習活動を楽しく行うことができるよう、ニーズに合わせた学習プログラムを提供し、スキルアップ・スポーツ・文化・芸術・ボランティア活動など、様々な形の学びの場づくりを推進します。

②こどもから大人までがゆるやかにつながる対話の場づくり

○様々な考えや意見に触れることで、自分自身を見つめ直し、相手との違いに気づくことができます。他者の価値観を受け入れ、互いを認め合うきっかけとなるために、こどもから大人までが、楽しくゆるやかにつながることができる対話の場づくりを推進します。

③学びの機会や団体についてのさらなる情報発信

○市民が学びの場や対話の場の情報を簡単に得ることができ、参加しやすくなるように、対象者に合わせた情報発信を推進します。

④デジタル社会に対応した生涯学習事業の推進

○デジタルリテラシーの理解を進めるための学習機会の提供や、オンラインで学習を進めることができる体制を推進します。

⑤誰もが楽しく学ぶことができる環境づくり

○誰もが参加できる学びの環境をつくることは、学びを進めることにおいて重要です。市民が安心して生涯学習活動を行えるよう、市の所管する生涯学習に関わる公共施設の管理運営を行います。

2. みんなの「やりたいこと」を支える人づくり・つながりづくり

ワクワクして
つながる

学び合いを生み出し、広げるためには、学び合う人たちのつながりや、地域の「ひと」・「組織」などをゆるやかにつなげるコーディネーターが必要です。市民一人ひとりの「やりたい」を応援するために市民同士がつながる機会と、人と人をつなげる人材の育成と、活躍する機会づくりを推進します。

① 学びを通じた「ひと」と「ひと」をつなぐ仕組みづくり

○様々な生涯学習活動をされている個人や団体をつなぎ、学びや価値観を広げ、新たなことにチャレンジできる仲間をつくるための仕組みづくりを推進します。

② 「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材の育成と活躍機会の促進

○丹波市における「地域学校協働活動推進員」や「地域コミュニティ活動推進員」など、学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材の育成を推進するとともに、「社会教育士」などの専門人材の活躍機会の促進を図ります。

③ 市民の学びを支える人材同士のネットワークづくり

○市民の生涯学習活動を支える人材同士が、様々な課題を解決するために情報を共有し、連携・協働できるネットワークづくりを推進します。

④ 市民の学びを支援する機能の充実

○市民が生涯学習活動で身につけた力を活かすことや、学びを通じてつながるために、市民活動支援センターや図書館など、市民の生涯学習を支援する機能の充実を図ります。

3. 学んだ成果を活かしながら活躍できる地域づくり

一緒に
やってみる

誰にもが気軽に「やりたい」と言える地域になるために、学びを通じて、地域・家庭・学校がつながり、こどもから大人まで共に楽しく学び合える、それぞれの地域に根差した地域づくりを推進します。

①地域・家庭・学校がつながる「地域教育ネットワーク」の推進

○こどもから大人までが楽しく学び合い、支え合うために、地域・家庭・学校の連携・協働のためのネットワークづくりを推進します。

②地域課題の解決に向けた市民や団体、企業などとの連携・協働

○地域課題の解決に向けた取組が効果的に推進されるよう、市民や団体、企業などと連携・協働を図ります。

③誰もが「やりたい」と言え、「やりたいこと」を支える人がいる地域づくり

○年齢・性別・国籍の違いや障がいの有無などに関わらず、誰もが互いに認め合いながら「やりたい」ことを表現でき、「やりたいこと」を支える人がいる地域づくりを推進します。

④学びを通じた「参画」と「協働」のまちづくり

○こどもから大人までが楽しく学び合い、互いがつながり合うことで、市民も職員もワクワクしながらつくる「参画」と「協働」のまちづくりを推進します。

第6章 計画の推進体制と進捗管理

1. 計画の推進体制

本計画は、教育や文化に留まらず、環境、健康福祉、産業、まちづくりなど幅広い分野に広がる計画です。この計画の推進には、市民一人ひとりが社会的に包摂され、主体的に参加できる施策を推進するために、生涯学習に関わるすべての関係者が、それぞれに役割を担いながら連携して取り組むことが必要となります。関係団体などによる協議の場づくりから始め、市民と行政との協働による生涯学習の推進体制を確立します。

(1) 施策の推進体制

生涯学習の推進は、行政のあらゆる分野の政策に関わり、総合的に関連づける必要があります。

また、本計画の基本理念の達成のため、丹波市自治基本条例に規定する基本原則を踏まえ、市民との連携・協働による取組という認識に立った体制を確立し、推進します。

○丹波市生涯学習推進本部

本計画の基本理念に基づく具体的施策を展開し、本市における生涯学習の推進を図るため、市長を本部長とした丹波市生涯学習推進本部(以下「推進本部」という。)を設置しています。

推進本部は、本計画の行動計画であるアクションプランを策定し、庁内各部署に対して、生涯学習施策の実施指示及び施策の進捗管理を行います。

庁内各部署は、推進本部の指示を受け、関係団体・関係部署との連携の中核的機能を担い、本計画の基本理念達成のための具体的な各種事業を展開します。

○丹波市生涯学習推進審議会

本計画の基本理念を基に多様な生涯学習の推進を図るため、丹波市生涯学習推進審議会(以下「審議会」という。)を設置します。

審議会では、本計画の行動計画であるアクションプランへの提言など、本計画に基づいた生涯学習の推進に関する協議を行います。

(2)連携体制

本計画の基本理念達成のためには、行政だけでなく、生涯学習に取り組む様々な団体・グループ・個人が関わりを持ちながら活動していくことが必要です。

市民一人ひとりが社会的に包摂され、主体的に参加できる施策を推進するために、施策推進の中心となる市の生涯学習所管部署を核とし、市関係部署・機関をはじめ、国や兵庫県、地域・家庭・学校及び市民や団体・企業などと連携・協働することができる体制を構築します。

○丹波市市民活動支援センター

丹波市市民活動支援センターは、指定管理者である中間支援団体により運営され、丹波市まちづくりビジョン(20年後のまちと暮らしの姿)に描かれる住み慣れたまちに住み続けられる暮らし、そして、地域のことは地域のみんなで行き届く「地域自治」の実現に向けて、市民が主体となった市民活動や地域づくり活動を総合的に支援する役割を担います。

また、知識循環型生涯学習の拠点として、市民が主体的に学び、学んだ成果をまちづくりの実践に生かすことができるよう支援する役割を担います。

○自治協議会

自治協議会は、概ね小学校区を単位とする地域内の個人あるいは多様な主体を構成員とします。地域が将来どのようなまちをつかっていきたいかという目指す将来像を自ら描き、その実現や地域課題の解決に向けて主体的に取り組む役割を担います。

○社会教育施設

図書館、美術館、博物館など、市民の生涯学習の機会を提供し、地域づくりや社会課題の解決に貢献する役割を持っています。

また、公立図書館は、中央図書館を含む市内に6館ある分館がそれぞれの特色に応じた運営を行っています。

○社会教育主事

「地域全体の学びのオーガナイザー」と呼ばれ、社会教育行政及び実践の取組全体を牽引し、地域全体の社会教育振興の中核を担う役割を持ちます。

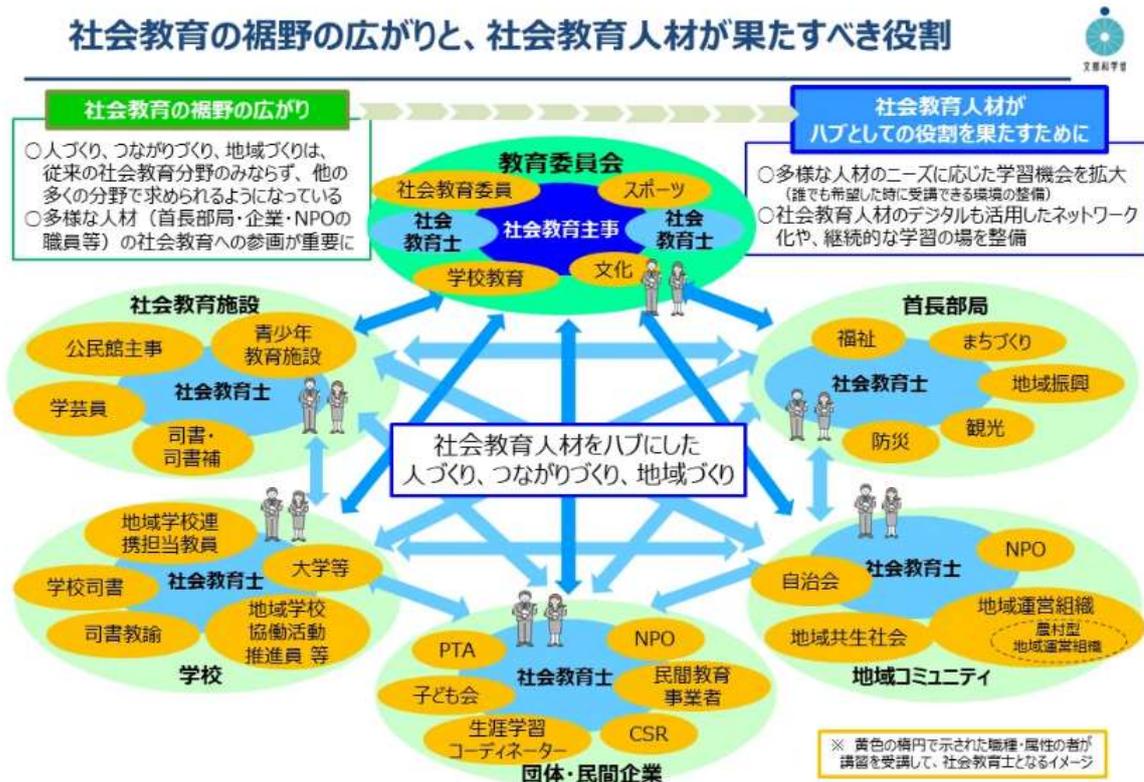
丹波市では教育委員会に1名配置されています。

○社会教育士

令和2年度から始まった新しい称号であり、「各分野の専門性を様々な場に活かす学びのオーガナイザー」と呼ばれ、学びを通じて、人づくり、つながりづくり、地域づくりに中核的な役割を果たす専門人材です。

丹波市内には、行政内部のみならず、民間の分野においても社会教育士がいます。また、市内の社会教育士が主体的に取り組むコミュニティも存在します。

社会教育の裾野の広がり、社会教育人材が果たすべき役割



(3) 本計画の周知

生涯学習の施策を効果的に推進するためには、本計画を市民や関係団体等へ周知し、理解いただくことが必要です。市広報やホームページへの掲載をはじめとしたあらゆる広報媒体を使い、本計画や生涯学習の重要性の啓発に努めます。

また、生涯学習に関わる団体・グループやこどもから大人まで楽しみながら生涯学習への関心を深められる取組を企画します。

2. 計画の進捗管理

本計画は、推進本部において自己点検と進捗管理を行います。

また、本計画はその時々課題解決のために、計画期間の途中においても必要に応じて、審議会において見直しを図ります。

(1) 計画の進捗管理

本計画の具体的施策を推進するため、推進本部は、アクションプランに基づく事業実施指示を行い、その進捗管理と基本理念の実現に向けた数値目標、各部署における施策評価指標の達成状況を管理するとともに評価します。

(2) 基本計画の実現に向けた数値目標

本計画では、基本理念を実現するために、数値目標を設定し、計画を推進していきます。

定期的に生涯学習に関する市民意識調査を行い、市の最上位計画である、第3次丹波市総合計画の指標や本計画の基本理念に基づく指標、市の行政施策評価時に基づく指標設定により、目標値の達成状況を評価していきます。

めざす方向性	指標名 (シンボル指標)	基準値(%)	目標値(%)		説明
		R6	R11	R16	
楽しく学ぶ ワクワクしてつながる 一緒にやってみる	1年以内に生涯学習を行った割合	62.7	75.0	80.0	生涯学習活動の実施状況を推定するもの 【算出根拠】 R6年度の市民意識調査の実績に基づき、年1%(約600人)の増加をめざす。
	学びの活動で身についた知識や技能を地域や社会での活動に生かしたいと思う市民の割合	35.1	45.0	53.0	知識の循環を目的とした学びの活動の意欲を推定するもの 【算出根拠】 R6年度の市民意識調査の実績に基づき、年1.6%(約900人)の増加をめざす。
	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気があると思いますか。	16.8	48.4	80.0	「学びの土壌」の豊かさ示し、ウェルビーイングの向上を推定するもの。 【算出根拠】 令和6年度の丹波市しあわせ実感調査の実績に基づき、年〇〇%(約〇〇〇人)の増加をめざす。
	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会があると思いますか。	20.6	50.3	80.0	学びが地域に根付き、ウェルビーイングの向上を推定するもの。 【算出根拠】 令和6年度の丹波市しあわせ実感調査の実績に基づき、年〇〇%(約〇〇〇人)の増加をめざす。

参考資料

1. 丹波市生涯学習基本計画審議会設置条例

○丹波市生涯学習基本計画審議会設置条例

平成25年3月8日

条例第7号

(設置)

第1条 丹波市自治基本条例(平成23年丹波市条例第52号)第21条第3項の規定に基づき、生涯学習に係る基本的な計画を策定するため、丹波市生涯学習基本計画審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、丹波市生涯学習基本計画の策定に関し、必要な調査と審議を行い、市長の諮問に答申するものとする。

(組織)

第3条 審議会は、委員16人以内をもって組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者 2名以内
- (2) 社会教育委員の代表 1名
- (3) 校長の代表 1名
- (4) スポーツ推進審議会委員 1名
- (5) 生涯学習関係団体の代表 6名以内
- (6) 公募による市民 5名以内

(任期)

第4条 委員の任期は、当該諮問に係る所掌事務の終了をもって終わるものとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 審議会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ、これを開くことができない。

3 議長は、会議において必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴き、又は必要な書類の提出及び説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、まちづくり部において処理する。

(その他)

第8条 この条例に定めるもののほか審議会の運営について必要な事項は、委員長が会議に諮り、これを定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

(特例措置)

2 第6条第1項の規定にかかわらず、この条例の施行の日以後最初に開かれる会議は、市長が招集するものとする。

2. 丹波市生涯学習基本計画審議会委員名簿

No.	役職名	委員の選出基盤	氏名	備考
1	委員長	識見を有する者	岡田 龍樹	天理大学 副学長
2	副委員長	生涯学習関係団体の代表	葛木 伸一郎	たんば社会教育士コミュニティ代表
3	副委員長	公募委員	立石 実希	公募委員
4	委員	識見を有する者	萬浪 佳隆	兵庫県公民館連合会 会長 兵庫県社会教育委員会議 議長
5	委員	社会教育委員の代表	橋本 崇史	丹波市社会教育委員
6	委員	校長の代表	足立 和宏	丹波市学校長会(竹山小学校長)
7	委員	スポーツ推進審議会委員の代表	山内 佳子	丹波市スポーツ推進審議会 会長
8	委員	生涯学習関係団体の代表	藤原 亨	スポーツクラブ 21 氷上東 理事
9	委員	生涯学習関係団体の代表	西垣 義之	丹波市人権・同和教育協議会 会長
10	委員	生涯学習関係団体の代表	松井 崇好	丹波サイクリング協会 会長
11	委員	生涯学習関係団体の代表	大槻 芳裕	柏原中学校学校運営協議会 地域学校協働活動推進員
12	委員	公募委員	石塚 和彦	公募委員
13	委員	公募委員	上山 未登利	公募委員
14	委員	公募委員	下野 広志	公募委員

3. 審議会等の経過

日 付	内 容	備 考
令和6年5月15日(水)	有識者事前打ち合わせ	天理大学 副学長室
令和6年5月27日(月)	審議会(第1回)	氷上住民センター 実習室
令和6年6月20日(木)	正副委員長事前打ち合わせ	zoom
令和6年6月24日(月)	審議会(第2回)	氷上住民センター 大会議室
令和6年7月24日(水)	審議会(第3回)	氷上住民センター 実習室
令和6年8月15日(木)	正副委員長事前打ち合わせ	zoom
令和6年8月21日(水)	審議会(第4回)	氷上住民センター 実習室
令和6年9月12日(木)	正副委員長事前打ち合わせ	zoom
令和6年9月26日(木)	審議会(第5回)	氷上住民センター 研修室
令和6年10月12日(土)	正副委員長事前打ち合わせ	zoom
令和6年10月21日(月)	審議会(第6回)	氷上住民センター 大会議室
令和6年10月26日(土)	TAMBA まなび・ときめきフェス 2024	丹波市立春日文化ホール
令和6年11月1日(金)	生涯学習推進本部会議(第1回)	
令和6年12月3日(火)	竹山小学校地域イベント	丹波市立竹山小学校
令和7年2月25日(火)	庁内会議(第1回)	本庁舎 第1会議室
令和7年3月26日(水)	審議会(第7回)	本庁舎 大会議室
令和7年4月	庁内会議(第2回)	
令和7年4月	審議会(第8回)	
令和7年5月	生涯学習推進本部会議(第2回)	
令和7年6月	パブリックコメント開始	
令和7年6月	パブコメミーティング開催	
令和7年6月	パブリックコメント締切	
令和7年7月	審議会(第9回)	
令和7年8月	答申手交式	

4. イベント紹介

「TAMBA まなび・ときめきフェス2024」

イベント概要

名 称 TAMBA まなび・ときめきフェス2024
～えんにち！（縁・円・宴）「ひと」と「ひと」がつながる日～
日 時 令和6年10月26日（土） 13:00～15:00
参加者 62名（こども29名・大人33名）
場 所 丹波市立春日文化ホール
内 容 氷上中学校吹奏楽部演奏・話題提供・トークフォークダンス

【トークフォークダンスとは】

参加者が輪になり、話す相手とテーマを変えながら、順番に対話をしていくワークショップ手法です。今回は、こどもから大人までが一緒に対話できる場となりました。

【イベントの様子】

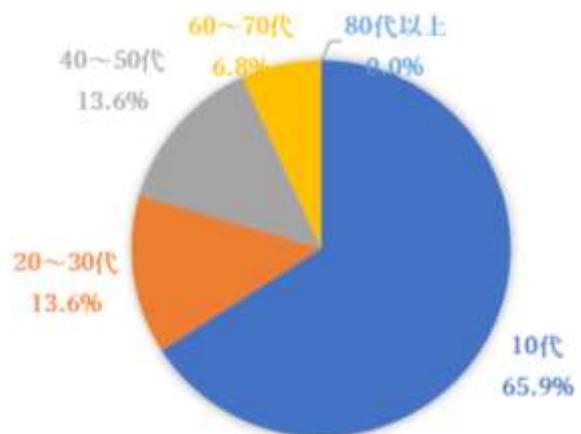


イベントの詳細は市のホームページに掲載しています。（下 二次元コード▼）



アンケート回答者

年代	人数	割合
10代	29	65.9%
20～30代	6	13.6%
40～50代	6	13.6%
60～70代	3	6.8%
80代以上	0	0.0%



「こどもから大人まで誰もが楽しく学び合えるまち」になるために、あなたは何が大切だと思いますか。(自由記述)

(抜粋)

○対話・コミュニケーションに関すること。

- ・相手の心を考えて話すこと。
- ・一人ひとり違う意見があること。
- ・こどもも大人もお互いのことを知る。
- ・相手の考えを否定しない。
- ・どの年代の人もそれぞれの意見を受け入れること。
- ・対話と共感。
- ・対等な場での対話。 など

○イベント、学びの機会に関すること

- ・今回のイベントのような会話をすることが大切だと、今回のイベントを通じて思いました。
- ・いろんなイベントに参加すること。
- ・月に何回か(2~3回)子どもと大人であそびイベントをする。
- ・地域などで交流できる機会をつくり、自主的に参加すること。
- ・トークフォークダンスのように話して交流することが大切だと思いました。
- ・一緒になにか共通の目的に向かって取り組む機会。
- ・子どもと大人のカベをなくす本日のような取組。 など

トークフォークダンスで「対話」をしてみてもいかがだったでしょうか。感じたことや気づいたことなど自由にお書きください。(自由記述)

(抜粋)

○こどもの意見

- ・自分にはなかった考えや新しい視点から考えることができ、とてもおもしろかった。
- ・人と話すのはにがてだけど、笑顔で話を聞いてもらえてうれしかったです。
- ・大人にもいろんなことを想っているとわかりました。私たちの話をじっくり聞いてくれることがよかったです。
- ・最初のうちは慣れず恥ずかしかったが、対話していくうちに次第に楽しくなって面白かった。
- ・大人の話の話を聞くと、自分が将来どうなるのかなってという想像が膨らみました。大人の話の話を聞くのが楽しかった。 など

○大人の意見

- ・楽しかった。「教える」ではなく、対話の中で生まれる気づきや発見、それによる相互のまなびが素晴らしかった。ありがとうございました。
- ・子どもの考えに触れることができる貴重な時間でした。
- ・意外と急にもらったお題でもしゃべれるもんだなあと思いました。相手が聞いてくれる、安心できる場ならしゃべれるのですね。 など

丹波市立竹山小学校学校運営協議会主催 地域イベント

イベント概要

名 称 丹波市立竹山小学校 地域との交流イベント

日 時 令和6年12月3日(火) 13:20~14:30

参加者 157名(こども139名・大人18名)

場 所 丹波市立竹山小学校

目 的 地域住民がゲストティーチャーとなって児童の成長に関わる(生涯学習で得た知識を児童に還元することにより、児童が地域住民との交流を通じて豊かな人間性を育むとともに地域への愛着心を醸成する。

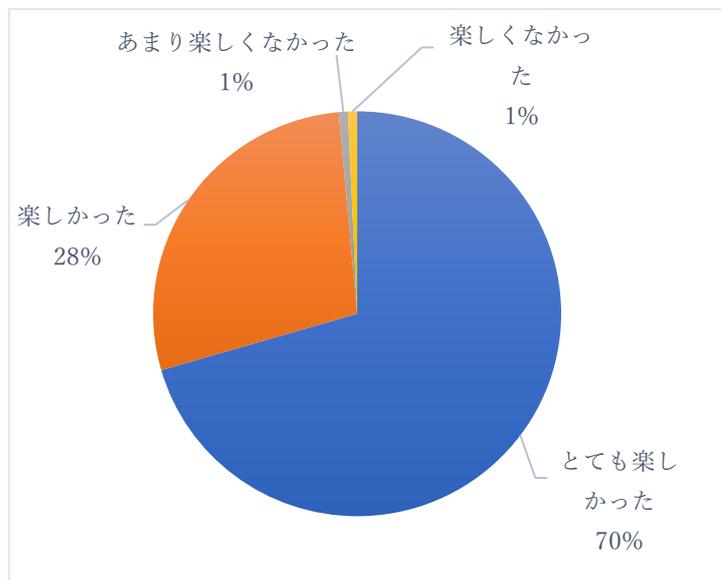
内 容 サッカー、囲碁ボール、カードづくり、門松づくりが行われ、児童は希望する取組に参加するという形式で行われた。

【イベントの様子】



イベントの詳細は市のホームページに掲載しています。(下部 二次元コード▼)

感想	人数	割合
とても楽しかった	98	70%
楽しかった	39	28%
あまり楽しくなかった	1	1%
楽しくなかった	1	1%



「とても楽しかった・楽しかった・あまり楽しくなかった・楽しくなかった」の理由
1・2年生の回答(児童への聞き取り調査)

(抜粋)

○サッカー

- ・休憩中の10m走が楽しかった。
- ・地域の人に蹴り方を教えてもらった。
- ・上手な子が多くて楽しめなかった。 など

○カードづくり

- ・クイズできた。
- ・絵を描くのが楽しい。
- ・好きな絵や文字をかいてうらのところで出てくる仕組みをつくるのが楽しかった。 など

○囲碁ボール

- ・オセロみたいやけどむずかしい。
- ・囲碁ボールがどんなルールでどんなやり方をするのか分かって楽しかった。
- ・積み木や輪投げが難しかったけれどできてうれしかった。 など

○門松づくり

- ・図工が好きだから。
- ・初めてで楽しかった。
- ・地域の人に色々なことを教えてもらってバランスを考えてしたら、きれいにできた。 など

「とても楽しかった・楽しかった・あまり楽しくなかった・楽しくなかった」の理由
3年生～6年生の回答(アンケート調査:原文のまま掲載しています。)

(抜粋)

- ・ふだんやらないから面白かった。
- ・地いきの方と遊べるし、他学年とも遊べるから。
- ・地域の方がすごいなんか習ってんのかほめたりしてくれてうれしかったし、いろいろなものがあって楽しかったからです。
- ・いごボールで教えてもらったらだんだん上手になりました。
- ・いつも遊んでいない人と作って、いつもより自分から話しかけられたからです。
- ・色々な人と話せて仲良しになれるから楽しいと思いました。
- ・地いきの人と活動ができたから。
- ・あまり交流がなかったし、違う学年とかとも仲良く遊べたから。
- ・アイデアが思いつかなかったら友達に聞いたりいっしょに考えたりしてきょうりよくできたので楽しかったです。
- ・全学年と出来て地いきの人ともあえたからよかった など

5. 用語集

- ・ICT
- ・丹波市自治基本条例
- ・知識循環型生涯学習
- ・市民活動支援センター
- ・丹波市市民プラザ
- ・コミュニティ・スクール
- ・地域学校協働活動
- ・指定管理
- ・コーディネーター
- ・こどもまんなか社会
- ・共生社会
- ・中央教育審議会
- ・ネットワーク型行政
- ・第4期教育振興基本計画
- ・社会的包摂
- ・第4期ひょうご教育創造プラン
- ・自治協議会
- ・丹波市まなびの里づくり協議会
- ・